

4. 植物

4-1 植物相

4-1-1 植物相の特徴

文献・資料ならびに 2009～2013 年度に実施された現地調査によると、岐阜市でこれまでに記録されている植物は、表 4-1 のとおり 160 科 1,538 種(シダ植物 17 科 151 種、裸子植物 6 科 11 種、被子植物 137 科 1,376 種)である(確認種の詳細は、表 4-2 を参照)。

岐阜市の標高は 3m～418m である。2013 年度の岐阜地方気象台の観測データを基にした暖かさの指数⁹は 137.2 であり、この数値は、植物群系からみると照葉樹林帯にあたり、岐阜市内では金華山の山麓に本来の自然植生である照葉樹林が形成されている。ここでは、生育分布が南方よりのカゴノキ、タマミズキ、ガンピ、イワタバコ、ヒトツバなどの植物種がみられる。

また、岐阜市は濃尾平野の北部に位置しており、平野部は市域の約 7 割を占めている。ここには清流長良川を中心に、その支川である伊自良川や鳥羽川、福富川などが流下し、その間には水田地帯が広がっている。さらにこの水田地帯には、無数の水路が網の目状に見られる。このように、岐阜市は水環境の豊かな市であり、コウホネ、エビモ、フサモといった水生植物やマルバヤナギ、カワヤナギ、セリ、コナギ、ホタルイなど確認種の 2 割近くが水環境を好む植物となっている。

4-1-2 岐阜市を代表する植物

市域の約 7 割を占める平野部には、草地、水田、畑地、水際植生、河畔林などが分布し、イヌタデ、スイバ、スベリヒユ、コハコベ、ムラサキケマン、ナズナ、ヘビイチゴ、ヤハズソウ、ヤハズエンドウ、カタバミ、スミレ、ノチドメ、ヤエムグラ、キュウリグサ、キランソウ、トウバナ、ホトケノザ、キツネノマゴ、オオバコ、ヨモギ、ノコンギク、ヨメナ、ノゲシ、ヒロハタンポポ、ノビル、スズメノヤリ、カゼクサ、チガヤ、スズメノカタビラ、カニツリグサなどの路傍雑草や、タガラシ、キツネノボタン、クサネム、ミゾハコベ、ヒメミソハギ、チョウジタデ、セリ、アゼナ、アギナシ、ウリカワ、コナギ、ホシクサ、イヌビエ、ホタルイなどの水田雑草、コウホネ、ヒシ、フサモ、クロモ、セキシヨウモ、エビモ、ヤナギモ、ヨシ、イグサ、ジュズダマ、ウキクサ、ガマなどの水生植物が生育している。河川周辺では、マルバヤナギ、カワヤナギ、タチヤナギなどのヤナギ類や、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどのニレ類が河畔林を形成し、カワラサイコ、カワラハハコなどの礫河原に生育する植物がみられる。

また、岐阜城を頂く金華山や百々ヶ峰、権現山などの山地部が市北部から市東部を中心として分布し、山林部分は市域全体の約 3 割を占めている。このうち金華山にはヤブツバキクラス域¹⁰の自然植生が発達しており、ツブラジイ、サカキ、カナメモチ、ヤブツバキ、アラカシなどの常緑広葉樹の生育が顕著である。また周辺の山林にはシイ・カシ林、アカマツ林、コナラ林、スギ・ヒノキ植林などが分布し、トウゲシバ、キジノオシダ、イノモトソウ、リョウメンシダ、テリハヤブソテツ、ヤマイタチシダ、ベニシダなどのシダ植物や、アカマツ、スギ、ヒノキ、ネズミサシなどの針葉樹、ツブラジイ、アラカシ、ヤブニッケイ、ヤブツバ

⁹ 暖かさの指数：吉良(1949)の考案した積算温度の一つで、植物の生育温度を日平均気温 5℃以上とみなし、各月の平均気温から 5℃を引いて 1 年間合計した値。暖かさの指数で植物帯を表すと、熱帯多雨林帯(240 以上)、亜熱帯多雨林帯(180～240)、照葉樹林帯(85～180)、落葉広葉樹林帯(45～85)、常緑針葉樹林帯(15～45)、ツンドラ帯(0～15)となる。

¹⁰ ヤブツバキクラス域：わが国の常緑広葉樹林の植物社会学的最高群落単位。標徴種に常緑植物のヤブツバキ、スタジイ、ヒサカキ、テイカカズラ、ヤブコウジ、ベニシダなどを有する。潜在自然植生がヤブツバキクラス林の地域をヤブツバキクラス域といい、東北南部・本州中部で海拔約 700m 以下がこれにあたる。

キ、ヒサカキ、ソヨゴ、アセビなどの常緑広葉樹、コナラ、アベマキ、アブラチャン、ヤマザクラ、イロハモミジ、ネジキ、コバノミツバツツジ、エゴノキ、リョウブ、コバノガマズミなどの落葉広葉樹が生育している。

表 4-1 生育記録のある植物の科・種数

分類	科数	種数		
シダ植物門	17	151		
種子植物門	6	11		
裸子植物亜門				
被子植物亜門	双子葉植物綱	離弁花亜綱	82	629
		合弁花亜綱	34	390
	単子葉植物綱		21	357
合計	160科	1,538種		

表 4-2 生育記録のある植物(1/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
シダ植物門	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	<i>Huperzia serrata</i>	○	○	○
		オトウゲシバ	<i>Huperzia serrata</i> var. <i>longipetiolata</i>	○	○	
		ホソバトウゲシバ	<i>Huperzia serrata</i> var. <i>serrata</i>	○	○	
		ミズスキ	<i>Lycopodium cernuum</i>	○	○	○
		ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i>	○	○	○
		マンネンスキ	<i>Lycopodium dendroideum</i>	○	○	
イワヒバ科	カタヒバ	カタヒバ	<i>Selaginella involvens</i>	○	○	○
		クラマコケ	<i>Selaginella remotifolia</i>	○	○	○
		イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>			○
		コンテリクラマコケ	<i>Selaginella uncinata</i>			○
ミスズラ科	ミスズラ	<i>Isoetes japonica</i>			○	
トクサ科	スキナ	スキナ	<i>Equisetum arvense</i>	○	○	○
		トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>	○		○
		イヌスキナ	<i>Equisetum palustre</i>			○
		イヌトクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i>			○
ハナヤスリ科	オオハナワラビ	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>	○	○	
		フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i>	○	○	○
		コヒロハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>			○
		コハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>nipponicum</i>			○
ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	○	○	○	
キシノオシダ科	オオキシノオ	オオキシノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>	○	○	○
		キシノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>	○	○	○
		ヤマゾテツ	<i>Plagiogyria matsumurana</i>			○
		フタツキシノオ	<i>Plagiogyria</i> x <i>sessilifolia</i>	○		
ウラボシ科	コシダ	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	○	○	○
		ウラボシ	<i>Diplazium glaucum</i>	○	○	○
フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	○	○	○	
コケシノブ科	ウチワゴケ	ウチワゴケ	<i>Crepidomanes minutum</i>	○	○	○
		コウヤコケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i>	○	○	○
		ホソバコケシノブ	<i>Hymenophyllum polyanthos</i>			○
		コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>	○	○	
		ハイホゴケ	<i>Vandenboschia kalamocarpa</i>	○		
イノモトウ科	ホウライシダ	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>			○
		クシヤクシダ	<i>Adiantum pedatum</i>	○	○	○
		ミスワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i>	○	○	○
		イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i>	○	○	○
		イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>	○	○	○
		イヌイワガネソウ	<i>Coniogramme</i> x <i>fauriei</i>	○		

表 4-2 生育記録のある植物 (2/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地	
シダ植物門	イノモトウ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	○	○	○	
		コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>	○	○	○	
		イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>	○	○	○	
		フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>	○	○	○	
		イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i>			○	
		クシヤクフモトシダ	<i>Microlepia x bipinnata</i>			○	
		オオフジシダ	<i>Monachosorum flagellare</i>	○	○		
		フジシダ	<i>Monachosorum maximowiczii</i>	○	○		
		タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>	○	○		
		ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i>	○	○	○	
		オオハノイノモトウ	<i>Pteris cretica</i>	○	○	○	
		オオハノハチンショウシダ	<i>Pteris excelsa</i> var. <i>excelsa</i>			○	○
		イノモトウ	<i>Pteris multifida</i>	○	○	○	
		ホラシノブ	<i>Sphenomeris chinensis</i>	○	○	○	
	シノブ科	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>	○	○	○	
	シシラン科	シシラン	<i>Haplopteris flexuosa</i>	○	○	○	
	チャセンシダ科	シモツケヌトランオ	<i>Asplenium boreale</i>	○	○	○	
		シモダヌトランオ	<i>Asplenium boreale</i>			○	
		ヒメイトランオ	<i>Asplenium capillipes</i>	○			
		トランオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	○	○	○	
		ヌトランオ	<i>Asplenium normale</i>	○	○	○	
		カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i>	○	○		
		コバノヒノキシダ	<i>Asplenium sarelii</i>	○	○	○	
		チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i>			○	○
		トキシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i>			○	
		シシガシラ科	シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	○	○	○
	オンダ科	ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>	○	○		
		オオカナワラビ	<i>Arachniodes amabilis</i>	○	○	○	
		ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>	○	○	○	
		オニカナワラビ	<i>Arachniodes caudata</i>	○	○	○	
カナワラビ		<i>Arachniodes rhomboidea</i>	○				
リウモンシダ		<i>Arachniodes standishii</i>	○	○	○		
サトメシダ		<i>Athyrium deltoideifrons</i>	○	○			
ホソバイヌワラビ		<i>Athyrium iseanum</i>	○	○	○		
ミヤマメシダ		<i>Athyrium melanolepis</i>			○		
イヌワラビ		<i>Athyrium niponicum</i>	○	○	○		
ニシキシダ		<i>Athyrium niponicum</i> f. <i>metallicum</i>			○		
タニイヌワラビ		<i>Athyrium otophorum</i>	○	○			
ヤマイヌワラビ		<i>Athyrium vidalii</i>	○	○	○		
ヒロハイヌワラビ		<i>Athyrium wardii</i>	○	○			
ヘビノネコサ		<i>Athyrium yokoscense</i>	○	○			
シゲチシダ		<i>Cornopteris decurrenti-alata</i>	○	○	○		
メヤブソテツ		<i>Cyrtomium caryotideum</i>			○		
オニヤブソテツ		<i>Cyrtomium falcatum</i>	○	○			
ヤブソテツ		<i>Cyrtomium fortunei</i>	○	○	○		
ヤマヤブソテツ		<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>clivicola</i>	○	○			
テリハヤブソテツ		<i>Cyrtomium laetevirens</i>	○		○		
シケンダ		<i>Deparia japonica</i>	○	○	○		
ヘランダ		<i>Deparia lancea</i>	○	○			
ミヤマシケンダ		<i>Deparia pycnosora</i>			○		
ミヤマノコギリシダ		<i>Diplazium mettenianum</i>	○	○			
キョダキシダ		<i>Diplazium squamigerum</i>			○		
ノコギリシダ		<i>Diplazium wichurae</i>			○		
キヨスミヒメワラビ		<i>Dryopsis maximowicziana</i>	○				
ヤマイタチシダ		<i>Dryopteris bissetiana</i>	○	○	○		
サイゴクヘニシダ		<i>Dryopteris championii</i>	○	○	○		
オシダ		<i>Dryopteris crassirhizoma</i>	○				
イワヘゴ		<i>Dryopteris cycadina</i>	○	○			

表 4-2 生育記録のある植物 (3/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
シダ植物門	オシダ科	オオカシヤクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>			○
		ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	○	○	○
		マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i>	○	○	○
		スカイチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i>	○	○	
		オオベニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i>	○	○	
		キフベニシダ	<i>Dryopteris kinkiensis</i>	○	○	○
		キノコベニシダ	<i>Dryopteris kinokuniensis</i>	○		
		スカイチシダモドキ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>indusiata</i>	○	○	
		クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	○	○	○
		エンジュウベニシダ	<i>Dryopteris medioxima</i>	○	○	
		トウゴクシダ	<i>Dryopteris nipponensis</i>	○	○	
		オオイタチシダ	<i>Dryopteris pacifica</i>	○		
		オリセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i>	○		
		ヒメイタチシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i>	○		
		スカイチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i>	○	○	
		オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	○	○	○
		アイノコクマワラビ	<i>Dryopteris x mituii</i>	○		
		ナンゴクナライシダ	<i>Leptorumohra fargesii</i>	○	○	○
		ホソバナライシダ	<i>Leptorumohra miqueliana</i>			○
		クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>	○	○	○
		イヌガンソク	<i>Onoclea orientalis</i>			○
		コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>	○	○	○
		ツルデシダ	<i>Polystichum craspedosorum</i>	○		
		アアスカイノテ	<i>Polystichum longifrons</i>	○	○	○
		カタイノテ	<i>Polystichum makinoi</i>			○
		ツヤナシノテ	<i>Polystichum ovatopaleaceum</i> var. <i>ovatopaleaceum</i>	○	○	
		イノテ	<i>Polystichum polyblepharon</i>	○	○	○
		サイコクイノテ	<i>Polystichum pseudomakinoi</i>	○	○	
		サカゲイノテ	<i>Polystichum retrosopaleaceum</i>			○
		イノテモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>	○	○	
		ジュウモンシシダ	<i>Polystichum tripterum</i>	○	○	○
		ヒメカナワラビ	<i>Polystichum tsus-simense</i>	○	○	
		トウリョウイノテ	<i>Polystichum x anceps</i>	○		
		ハコネイノテ	<i>Polystichum x hakonense</i>	○		
		ヌリワラビ	<i>Rhachidosorus mesosorus</i>			○
		ミゾシダ	<i>Stegogramma pozoii</i> subsp. <i>Mollissima</i>	○	○	
		ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i>	○	○	○
		コハシコシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>			○
		ゲシゲシシダ	<i>Thelypteris decursivepinnata</i>	○	○	○
		イヌケホシダ	<i>Thelypteris dentata</i>	○		
		イブキシダ	<i>Thelypteris esquirolii</i> var. <i>glabrata</i>			○
		ハシコシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>	○	○	
		ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	○	○	○
		ヤワラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>	○	○	
		ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i>	○	○	○
		ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>	○	○	○
		ミドリヒメワラビ	<i>Thelypteris viridifrons</i>	○	○	○
ウラボシ科	マメヅタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>	○	○	○	
	ヒメノキシノブ	<i>Lepisorus onoei</i>	○	○	○	
	ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	○	○	○	
	イワヤナギシダ	<i>Loxogramme salicifolia</i>	○	○		
	ミヤマウラボシ	<i>Phymatopsis veitchii</i>			○	
	ヒロトシダ	<i>Pyrrhosia linearifolia</i>			○	
	ヒトツバ	<i>Pyrrhosia lingua</i>	○	○	○	
	ミツデウラボシ	<i>Selliguea hastata</i>	○	○	○	
	種子植物門	イヌガヤ科	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> var. <i>harringtonia</i>		○
裸子植物亜門	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	○	○	○
		ネズミサシ	<i>Juniperus rigida</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物 (4/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	マツ科	モミ	<i>Abies firma</i>	○	○	
裸子植物亜門		アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	○	○	○
		クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>	○	○	○
	マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>		○	○
	イチイ科	イチイ	<i>Taxus cuspidata</i>		○	
		キヤラホク	<i>Taxus cuspidata</i> var. <i>nana</i>		○	
		カヤ	<i>Torreya nucifera</i>		○	
	スキ'科	スキ'	<i>Cryptomeria japonica</i>	○	○	○
種子植物門	ヤマモモ科	ヤマモモ	<i>Morella rubra</i>	○		
被子植物亜門	クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>		○	○
双子葉植物綱	ヤナギ'科	ヤマナラシ	<i>Populus tremula</i> var. <i>sieboldii</i>		○	
離弁花亜綱		シタ'レヤナギ'	<i>Salix babylonica</i>	○		○
		ハ'ッコヤナギ'	<i>Salix caprea</i>	○		
		マルハ'ヤナギ'	<i>Salix chaenomeloides</i>	○	○	○
		コゴ'メヤナギ'	<i>Salix dolichostyla</i> subsp. <i>Serissifolia</i>	○		○
		ジ'ヤヤナギ'	<i>Salix eriocarpa</i>		○	○
		ネコヤナギ'	<i>Salix gracilistyla</i>	○	○	○
		イヌコリヤナギ'	<i>Salix integra</i>	○	○	
		コリヤナギ'	<i>Salix koriyanagi</i>		○	
		カリヤナギ'	<i>Salix miyabeana</i> subsp. <i>gymnolepis</i>	○	○	○
		エゾ'ノキヌヤナギ'	<i>Salix schwerinii</i>	○		
		キヌヤナギ'	<i>Salix schwerinii</i> "Kinuyanagi"	○		○
		タチヤナギ'	<i>Salix triandra</i> subsp. <i>nipponica</i>			○
		オノエヤナギ'	<i>Salix udensis</i>			○
		キツネヤナギ'	<i>Salix vulpina</i> subsp. <i>vulpina</i>	○	○	
		ロッコウヤナギ'	<i>Salix</i> x <i>gracilistyloloides</i>	○		
	カバ'ノキ科	ヤシヤブシ	<i>Alnus firma</i>	○	○	
		ヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta</i> var. <i>sibirica</i>	○	○	
		ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	○	○	○
		カララハンノキ	<i>Alnus serrulatoidea</i>		○	○
		オオハ'ヤシヤブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	○	○	
		ミズメ	<i>Betula grossa</i>		○	
		クマシテ'	<i>Carpinus japonica</i>		○	
		アカシテ'	<i>Carpinus laxiflora</i>	○	○	○
		イヌシテ'	<i>Carpinus tschonoskii</i>	○	○	○
		ツノハシハミ	<i>Corylus sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	○	○	
	ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>	○	○	○
		ツブラシ'イ	<i>Castanopsis cuspidata</i>	○	○	○
		スタ'シ'イ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	○	○	○
		マテバシ'イ	<i>Lithocarpus edulis</i>		○	
		クヌキ'	<i>Quercus acutissima</i>	○	○	
		ミス'ナラ	<i>Quercus crispula</i>	○	○	
		カシ'ワ	<i>Quercus dentata</i>	○		
		イチイガシ	<i>Quercus gilva</i>	○	○	○
		アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	○	○	○
		シラカシ	<i>Quercus myrsinifolia</i>	○	○	○
		ウバ'メガシ	<i>Quercus phillyreoides</i>		○	
		ウラシ'ロガシ	<i>Quercus salicina</i>	○	○	○
		コナラ	<i>Quercus serrata</i>	○	○	○
		ツクバ'ネガシ	<i>Quercus sessilifolia</i>	○	○	○
		アベ'マキ	<i>Quercus variabilis</i>	○	○	○
	ニレ科	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	○	○	○
		エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	○	○	○
		アキニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>	○	○	○
		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	○	○	○
	クリ科	ヒメコウゾ'	<i>Broussonetia kazinoki</i>		○	○
		コウゾ'	<i>Broussonetia kazinoki</i> x <i>B. papyrifera</i>	○	○	
		カシ'ノキ	<i>Broussonetia papyrifera</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物 (5/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	クワ科	クワサ	<i>Fatoua villosa</i>	○	○	○
被子植物門		イタビカスラ	<i>Ficus nipponica</i>	○	○	○
双子葉植物綱		カナムグサ	<i>Humulus scandens</i>	○	○	○
離弁花亜綱		マグワ	<i>Morus alba</i>			○
		ヤマクワ	<i>Morus australis</i>		○	○
		クワ	<i>Morus bombycis</i>		○	○
	イラクサ科	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>	○	○	○
		カラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>concolor</i> f. <i>nipponnivea</i>	○	○	○
		ナンバンカラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>nivea</i>		○	
		メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	○	○	○
		マルバヤブマオ	<i>Boehmeria robusta</i>		○	
		ナガバヤブマオ	<i>Boehmeria sieboldiana</i>		○	
		アカソ	<i>Boehmeria silvestrii</i>	○	○	○
		コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>	○	○	○
		トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>		○	
		ウワバミソウ	<i>Elatostema involucratum</i>	○	○	○
		ヤマトキホコリ	<i>Elatostema laetevirens</i>			○
		ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>			○
		カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>			○
		サンショウソウ	<i>Pellionia minima</i>	○	○	○
		オオサンショウソウ	<i>Pellionia radicans</i>		○	○
		キミス	<i>Pellionia scabra</i>		○	
		ミス	<i>Pilea hamaoi</i>		○	○
		ヤマミス	<i>Pilea japonica</i>		○	
		ミヤコミス	<i>Pilea kiotensis</i>			○
		アオミス	<i>Pilea pumila</i>		○	○
		イラクサ	<i>Urtica thunbergiana</i>	○		
	ビャクダン科	ツクハネ	<i>Buckleya lanceolata</i>	○	○	○
		カナビキソウ	<i>Thesium chinense</i>	○	○	○
	ヤドリギ科	マツタミ	<i>Taxillus kaempferi</i>	○	○	
		ヤドリギ	<i>Viscum album</i> subsp. <i>coloratum</i>	○	○	
	タデ科	ハルトラノオ	<i>Bistorta tenuicaulis</i> var. <i>tenuicaulis</i>		○	
		シヤクチリソバ	<i>Fagopyrum dibotrys</i>			○
		イタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		メイケツソウ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i> f. <i>colorans</i>	○		
		ケイタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>uzenensis</i>		○	
		ツルトクダミ	<i>Fallopia multiflora</i>		○	
		ナガバノヤノネグサ	<i>Persicaria brevichreata</i>			○
		ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>			○
		ミスヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>	○	○	○
		ギンミスヒキ	<i>Persicaria filiformis</i> f. <i>albiflora</i>		○	
		ヤナキタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>	○	○	○
		シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>	○	○	○
		サナエタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>incana</i>	○	○	○
		オオイスタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>		○	○
		イスタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	○	○	○
		サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	○	○	○
		サクラタデ	<i>Persicaria macrantha</i> subsp. <i>conspicua</i>	○	○	○
		ハルタデ	<i>Persicaria maculosa</i> subsp. <i>hirticaulis</i> var. <i>pubescens</i>		○	
		ヤノネグサ	<i>Persicaria muricata</i>	○	○	○
		シンミスヒキ	<i>Persicaria neofiliformis</i>		○	
		タニソバ	<i>Persicaria nepalensis</i>		○	○
		オオケタデ	<i>Persicaria orientalis</i>			○
		イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>	○	○	○
		ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i>		○	○
		ホソバナウナギツカミ	<i>Persicaria praetermissa</i>		○	
		ホソトクダテ	<i>Persicaria pubescens</i>		○	○
		ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物 (6/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	タデ科	ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticososa</i>	○	○	○
被子植物亜門		アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i>	○	○	○
双子葉植物綱		ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>		○	
離弁花亜綱		ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>	○	○	○
		ネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i> var. <i>viscofera</i>		○	
		ハイミチヤナギ	<i>Polygonum arenastrum</i>		○	○
		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> subsp. <i>aviculare</i>	○	○	○
		オオミゾソバ	<i>Polygonum thunbergii</i> var. <i>stoloniferum</i>	○	○	
		スイハ	<i>Rumex acetosa</i>	○	○	○
		ヒメスイハ	<i>Rumex acetosella</i> subsp. <i>pyrenaicus</i>	○	○	○
		アレチキシキシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		○	○
		ナガハキシキシ	<i>Rumex crispus</i>		○	○
		キシキシ	<i>Rumex japonicus</i>	○	○	○
		エゾノキシキシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		○	○
ヤマゴホウ科		ヨウシュヤマゴホウ	<i>Phytolacca americana</i>	○	○	○
オンロイハナ科		オンロイハナ	<i>Mirabilis jalapa</i>			○
サクロソウ科		サクロソウ	<i>Mollugo stricta</i>	○	○	○
		クルマハサクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>		○	
スベリヒユ科		スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	○	○	○
		ヒメマツバホタン	<i>Portulaca pilosa</i>			○
		ハゼラン	<i>Talinum paniculatum</i>			○
ナデシコ科		ハミツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>	○	○	○
		ミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> subsp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>		○	○
		オランダミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	○	○	○
		カワラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>	○	○	
		イヌコモチナデシコ	<i>Petrorhagia nanteuillii</i>			○
		コモチナデシコ	<i>Petrorhagia prolifera</i>			○
		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>		○	○
		ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>			○
		フシグロ	<i>Silene firma</i>		○	
		フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>		○	
		サクラマンテマ	<i>Silene pendula</i>		○	
		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	○	○	○
		サリハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i>	○	○	
		コハコベ	<i>Stellaria media</i>	○	○	○
		ミヤマハコベ	<i>Stellaria sessiliflora</i>		○	
		アオハコベ	<i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>apetala</i>			○
		ミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>	○	○	○
アカサ科		ホウキギ	<i>Bassia scoparia</i>	○		
		カララアカサ	<i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>		○	
		シロサ	<i>Chenopodium album</i>	○	○	○
		アカサ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>	○	○	○
		アリタウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i>		○	○
		ケアリタウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i> var. <i>pubescens</i>		○	
		コアカサ	<i>Chenopodium ficifolium</i>		○	
ヒユ科		ヒカゲイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		ヒナタイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	○	○	○
		ヤナギイノコヅチ	<i>Achyranthes longifolia</i>		○	○
		イヌビユ	<i>Amaranthus blitum</i>	○	○	○
		ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>			○
		ホナガイトウ	<i>Amaranthus viridis</i>		○	○
		ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>	○	○	○
		ケイトウ	<i>Celosia cristata</i>			○
モクレン科		オガタマノキ	<i>Magnolia compressa</i>		○	○
		コブシ	<i>Magnolia kobus</i>	○	○	○
		ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	○	○	○
		タムシハ	<i>Magnolia salicifolia</i>	○	○	
		オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> subsp. <i>japonica</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物(7/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	モクレン科	シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i>	○	○	
被子植物亜門	マツバサ科	サネカスラ	<i>Kadsura japonica</i>	○	○	○
双子葉植物綱		マツバサ	<i>Schisandra repanda</i>	○	○	○
離弁花亜綱	シキミ科	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	○	○	○
	ロウバイ科	アメリカロウバイ	<i>Calycanthus floridus</i> var. <i>glaucus</i>		○	
	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	○	○	○
		ニッケイ	<i>Cinnamomum sieboldii</i>		○	
		ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum tenuifolium</i>	○	○	○
		カナクギノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i>	○	○	○
		ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	○	○	○
		ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>		○	
		アブラチャン	<i>Lindera praecox</i>	○	○	
		シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	○	○	○
		クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	○	○	○
		カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	○	○	○
		アオガシ	<i>Machilus japonica</i>		○	
		タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>		○	○
		イヌガシ	<i>Neolitsea aciculata</i>		○	
		シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>		○	○
	ヤマガルマ科	ヤマガルマ	<i>Trochodendron aralioides</i>			○
	キンポウゲ科	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>		○	○
		アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>		○	
		ホトタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i>	○	○	○
		コホトタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitermata</i>		○	○
		カサグルマ	<i>Clematis patens</i>	○	○	
		クサボタン	<i>Clematis stans</i>		○	
		センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	○	○	○
		トウゴクサハノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>		○	
		ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>		○	○
		ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>	○	○	○
		バイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i>			○
		タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>	○	○	○
		キツネノボタン	<i>Ranunculus sibirifolius</i>	○	○	○
		ヒメウス	<i>Semiaquilegia adoxoides</i>	○	○	○
		カラマツソウ	<i>Thalictrum aquilegifolium</i> var. <i>intermedium</i>		○	
		アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>		○	○
	メギ科	ホソバヒイラギナンテン	<i>Berberis fortunei</i>		○	
		ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	○	○	○
		ヘビノホラス	<i>Berberis sieboldii</i>	○	○	
		メギ	<i>Berberis thunbergii</i>	○	○	
		ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	○	○	○
	アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	○	○	○
		ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	○	○	○
		ゴヨウアケビ	<i>Akebia x pentaphylla</i>			○
		ムヘ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>		○	○
	ツヅラフシ科	アオツヅラフシ	<i>Cocculus trilobus</i>	○	○	○
		ツヅラフシ	<i>Sinomenium acutum</i>		○	
	スイレン科	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	○		
		フサジュンサイ	<i>Cabomba caroliniana</i>			○
		ハス	<i>Nelumbo nucifera</i>	○		
		コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>	○	○	○
		オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>		○	
		ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	○	○	○
		ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i>	○	○	○
	マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>		○	○
	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	○	○	○
		ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	○	○	
	センリョウ科	フタリスズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	○	○	

表 4-2 生育記録のある植物 (8/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	センリョウ科	センリョウ	<i>Sarcandra glabra</i>	○	○	○
被子植物亜門	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	○	○	○
双子葉植物綱		ヒメカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>takaoui</i>	○	○	○
離弁花亜綱		カンアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>		○	
	マタタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>			○
		マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>		○	
	ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	○	○	○
		ササシカ	<i>Camellia sasanqua</i>		○	
		チャノキ	<i>Camellia sinensis</i>	○	○	○
		サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	○	○	○
		ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>		○	
	オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	○	○	○
		ヒメオトギリ	<i>Hypericum japonicum</i>		○	○
		コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>	○	○	○
		アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>		○	
		サワオトギリ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i>	○	○	○
	モウセンゴケ科	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>		○	
		モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i>	○	○	○
	ケシ科	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i>	○	○	○
		ジロボウエンゴサク	<i>Corydalis decumbens</i>	○	○	○
		キクマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i>		○	
		ムラサキクマン	<i>Corydalis incisa</i>	○	○	○
		ヤマキクマン	<i>Corydalis ophiocarpa</i>		○	
		ミヤマキクマン	<i>Corydalis pallida</i>		○	○
		タケニクサ	<i>Macleaya cordata</i>	○	○	○
		ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>			○
		オニゲシ	<i>Papaver orientale</i>		○	
	アブラナ科	ヤマハタザオ	<i>Arabis hirsuta</i>		○	
		ヤマガラシ	<i>Barbarea orthoceras</i>		○	
		カラシナ	<i>Brassica juncea</i>		○	○
		セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>			○
		ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	○	○	○
		ヒロハコロンソウ	<i>Cardamine appendiculata</i>		○	
		ジヤニンジン	<i>Cardamine impatiens</i>		○	
		ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	○	○	○
		オオハタネツケバナ	<i>Cardamine regeliana</i>	○	○	○
		タネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>	○	○	○
		イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	○	○	
		ワサビ	<i>Eutrema japonicum</i>	○	○	○
		ユリワサビ	<i>Eutrema tenue</i>		○	
		マメケンバインナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>	○	○	○
		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	○	○	○
		ミチバタガラシ	<i>Rorippa dubia</i>		○	○
		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	○	○	○
		スカシタゴボウ	<i>Rorippa palustris</i>	○	○	○
		ケンバインナズナ	<i>Thlaspi arvense</i>		○	
		ハタザオ	<i>Turritis glabra</i>	○	○	
	スズカケノキ科	モミジバシスカケノキ	<i>Platanus x acerifolia</i>		○	
	マンサク科	ヒュウガミスギ	<i>Corylopsis pauciflora</i>		○	
		イスノキ	<i>Distylium racemosum</i>	○	○	
		ヨウロウマンサク	<i>Hamamelis incarnata</i> var. <i>brachypetala</i>	○		
		マンサク	<i>Hamamelis japonica</i>	○	○	○
		イナバマンサク	<i>Hamamelis yoshidai</i>	○		
		フウ	<i>Liquidambar formosana</i>		○	
	ヘンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>	○	○	○
		コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	○	○	○
		メノマンネングサ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物 (9/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ヘンケイソウ科	オカタイトコメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>		○	
被子植物亜門		オノマンネンゲサ	<i>Sedum lineare</i>		○	○
双子葉植物綱		マルバマンネンゲサ	<i>Sedum makinoi</i>		○	○
離弁花亜綱		メキシコマンネンゲサ	<i>Sedum mexicanum</i>		○	
		ツルマンネンゲサ	<i>Sedum sarmentosum</i>		○	○
		ヒメレンゲ	<i>Sedum subtile</i>			○
ユキノシタ科		チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>		○	
		トリアシショウマ	<i>Astilbe odontophylla</i>	○	○	○
		アカショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>		○	
		クサアジサイ	<i>Cardiandra alternifolia</i>	○	○	
		ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	○	○	○
		ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>		○	○
		ホトタンネコノメソウ	<i>Chrysosplenium kiotoense</i>		○	
		タチネコノメソウ	<i>Chrysosplenium tosaense</i>			○
		ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	○	○	○
		ヒメウツギ	<i>Deutzia gracilis</i>	○	○	
		ウラボシ	<i>Deutzia maximowicziana</i>		○	
		コアジサイ	<i>Hydrangea hirta</i>	○	○	○
		タマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i>	○	○	
		ハクウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i>	○	○	○
		ガクウツギ	<i>Hydrangea scandens</i>		○	
		ヤマアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>serrata</i>	○	○	
		ミカワチャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>furusei</i>		○	○
		チャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>subramosa</i>	○	○	
		コチャルメルソウ	<i>Mitella pauciflora</i>			○
		ハイカウツギ	<i>Philadelphus satsumi</i>	○	○	
		ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>		○	
		ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>			○
		ナメダダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>suwoensis</i>		○	
		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	○	○	○
		イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	○	○	○
		ズダヤクシュ	<i>Tiarella polyphylla</i>		○	
トベラ科		トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>		○	○
バラ科		ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>		○	○
		キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>viscidula</i>	○	○	○
		ザイフリホク	<i>Amelanchier asiatica</i>	○	○	○
		アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>	○	○	○
		ウラボシ	<i>Aria japonica</i>	○	○	
		ウメ	<i>Armeniaca mume</i>		○	
		チョウジザクラ	<i>Cerasus apetala</i> var. <i>tetsuyae</i>	○		
		カンヒザクラ	<i>Cerasus campanulata</i>		○	
		マメザクラ	<i>Cerasus incisa</i> var. <i>incisa</i>		○	
		キンキマメザクラ	<i>Cerasus incisa</i> var. <i>kinkiensis</i>		○	
		ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i>	○	○	○
		カスミザクラ	<i>Cerasus leveilleana</i>	○	○	○
		サトザクラ	<i>Cerasus serrulata</i>		○	
		エドヒガン	<i>Cerasus spachiana</i> var. <i>spachiana</i> f. <i>ascendens</i>		○	
		ソメイヨシノ	<i>Cerasus x yedoensis</i>		○	
		クサホケ	<i>Chaenomeles japonica</i>	○	○	
		ホケ	<i>Chaenomeles speciosa</i>			○
		ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>	○	○	○
		ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	○	○	
		リンホク	<i>Laurocerasus spinulosa</i>	○	○	○
		ズミ	<i>Malus toringo</i>	○	○	○
		コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>		○	
		イヌザクラ	<i>Padus buergeriana</i>		○	○
		ウワミズザクラ	<i>Padus grayana</i>	○	○	○
		カナメモチ	<i>Photinia glabra</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(10/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	バラ科	オヘビイチゴ	<i>Potentilla anemonifolia</i>	○	○	○
被子植物亜門		カラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	○	○	
双子葉植物綱		キシムシロ	<i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>	○	○	
離弁花亜綱		ミツバツチケリ	<i>Potentilla freyniana</i>	○	○	○
		ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>	○	○	○
		ヤブヘビイチゴ	<i>Potentilla indica</i>	○	○	○
		カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>leavis</i>	○	○	○
		ワタゲカマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>villosa</i>		○	
		トキワサンザシ	<i>Pyracantha coccinea</i>			○
		シヤリンハイ	<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>umbellata</i>			○
		テリノイバラ	<i>Rosa luciae</i>	○	○	○
		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	○	○	○
		アズマイバラ	<i>Rosa onoei</i> var. <i>oligantha</i>		○	
		ミヤコイバラ	<i>Rosa paniculigera</i>	○	○	○
		フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>	○	○	○
		ヒロドイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>	○		
		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	○	○	○
		ミヤマフユイチゴ	<i>Rubus hakonensis</i>		○	
		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	○	○	○
		ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>	○	○	○
		モミシイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>			○
		ナガバモミシイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>palmatus</i>	○	○	○
		ナリシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	○	○	○
		エビカライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>			○
		コシキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i>	○	○	○
		ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	○	○	
		ナガボノワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i>	○	○	○
		ナガボノシロワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>purpurea</i>			○
		ナンキンナナカマド	<i>Sorbus gracilis</i>	○	○	○
		ユキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i>		○	○
	マメ科	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	○	○	○
		ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	○	○	○
		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		○	○
		ヤブマメ	<i>Amphicarpea bracteata</i> subsp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		ホトイモ	<i>Apios fortunei</i>		○	○
		ケンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>	○	○	○
		シヤケツイバラ	<i>Caesalpinia decapetala</i> var. <i>japonica</i>		○	
		カラケツメイ	<i>Chamaecrista nomame</i>	○	○	
		タヌキマメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i>	○	○	○
		アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	○	○	○
		ヌスビトハギ	<i>Desmodium podocarpum</i> subsp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>	○	○	○
		ヤブハギ	<i>Desmodium podocarpum</i> subsp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>		○	
		ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>	○	○	○
		ノアスキ	<i>Dunbaria villosa</i>	○	○	○
		サイカチ	<i>Gleditsia japonica</i>		○	
		ツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>soja</i>	○	○	○
		ニワフジ	<i>Indigofera decora</i>		○	
		コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	○	○	○
		マルハヤハスソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i>		○	○
		ヤハスソウ	<i>Kummerowia striata</i>	○	○	○
		ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>	○	○	○
		キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>	○	○	○
		ホトハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	○	○	○
		ハイホトハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>serpens</i>	○		
		マルハハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>	○	○	○
		ツクシハギ	<i>Lespedeza homoloba</i>		○	
		ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>	○	○	○
		ミヤキノハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i> f. <i>thunbergii</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物(11/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	マメ科	ミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> var. <i>japonicus</i>	○	○	
被子植物亜門		イヌエンジュ	<i>Maackia amurensis</i>		○	○
双子葉植物綱		ウマコギヤシ	<i>Medicago polymorpha</i>		○	
離弁花亜綱		クズ	<i>Pueraria lobata</i>	○	○	○
		タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>		○	
		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	○	○	○
		エビノスクサ	<i>Senna obtusifolia</i>			○
		クララ	<i>Sophora flavescens</i>	○	○	○
		クスタマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>			○
		コムツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>		○	○
		ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>	○	○	○
		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	○	○	○
		クサフジ	<i>Vicia cracca</i>	○		
		スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	○	○	○
		ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> subsp. <i>nigra</i>	○	○	○
		カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>	○	○	○
		エビノラフジ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>cuspidata</i> var. <i>cuspidata</i>	○		
		ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>varia</i>			○
		ヤブツルアスキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>		○	○
		ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i>	○	○	
		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	○	○	○
		ナツフジ	<i>Wisteria japonica</i>		○	○
カタバミ科		イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>			○
		ハナカタバミ	<i>Oxalis bowieana</i>		○	○
		カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	○	○	○
		ウスアカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>atropurpurea</i>			○
		アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>			○
		ムラサキカタバミ	<i>Oxalis debilis</i> subsp. <i>corymbosa</i>	○	○	○
		オウチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>		○	○
		ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i>		○	
		エゾチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>		○	
フウソウ科		アメリカフウソウ	<i>Geranium carolinianum</i>	○	○	○
		ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	○	○	○
トウダイグサ科		エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>		○	○
		ニシキソウ	<i>Chamaesyce humifusa</i>	○	○	
		コニシキソウ	<i>Chamaesyce maculata</i>		○	○
		オオニシキソウ	<i>Chamaesyce nutans</i>		○	○
		ハイニシキソウ	<i>Chamaesyce prostrata</i>			○
		アレチニシキソウ	<i>Chamaesyce</i> sp. aff. <i>prostrata</i>		○	○
		ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>	○		
		トウダイグサ	<i>Euphorbia helioscopia</i>	○		
		ナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i>			○
		アカメガシロ	<i>Mallotus japonicus</i>	○	○	○
		ヤマアイ	<i>Mercurialis leiocarpa</i>	○	○	
		シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>		○	○
		コミカンソウ	<i>Phyllanthus lepidocarpus</i>	○	○	○
		ヒメミカンソウ	<i>Phyllanthus ussuriensis</i>		○	○
		ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		○	○
ユズリハ科		ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	○	○	○
ミカン科		マツカゼソウ	<i>Boenninghausenia albiflora</i> var. <i>japonica</i>		○	
		ナツミカン	<i>Citrus natsudaidai</i>		○	
		コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	○	○	
		キハダ	<i>Phellodendron amurense</i>		○	
		ミヤマシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>japonica</i>	○		
		カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	○	○	○
		フユザンショウ	<i>Zanthoxylum armatum</i> var. <i>subtrifoliatum</i>		○	
		ザンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	○	○	○
		イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(12/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ニガキ科	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>	○		○
被子植物亜門		ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>		○	
双子葉植物綱	センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i> var. <i>subtripinnata</i>	○	○	○
離弁花亜綱	ヒメハギ科	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>	○	○	
	ウルシ科	スルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>	○	○	○
		ツタウルシ	<i>Toxicodendron radicans</i> subsp. <i>orientale</i>	○	○	
		ハゼノキ	<i>Toxicodendron succedaneum</i>	○	○	○
		ヤマハゼ	<i>Toxicodendron sylvestri</i>	○	○	○
		ヤマウルシ	<i>Toxicodendron trichocarpum</i>	○	○	○
	カエデ科	オオモミジ	<i>Acer amoenum</i>		○	
		フカギレオオモミジ	<i>Acer amoenum</i> f. <i>palmatipartitum</i>		○	
		ヤマモミジ	<i>Acer amoenum</i> var. <i>matsumurae</i>	○	○	
		トウカエデ	<i>Acer buergerianum</i>			○
		ミツデカエデ	<i>Acer cissifolium</i>		○	
		ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>	○	○	○
		カラコキカエデ	<i>Acer ginnala</i> var. <i>aidzuense</i>		○	
		イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	○	○	○
		イタヤカエデ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>dissectum</i>			○
		エンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>dissectum</i> f. <i>dissectum</i>			○
		ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>			○
		ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	○	○	
		コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	○	○	
	ムクロシ科	フウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i>			○
		ムクロシ	<i>Sapindus mukorossi</i>		○	○
	トチノキ科	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>	○	○	
	ツツリネソウ科	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i>			○
		ツツリネソウ	<i>Impatiens textorii</i>	○	○	
	モチノキ科	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>	○	○	○
		モチノキ	<i>Ilex integra</i>		○	○
		タラヨウ	<i>Ilex latifolia</i>		○	○
		アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	○	○	○
		タマミズキ	<i>Ilex micrococca</i>	○	○	○
		ソゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	○	○	○
		クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	○	○	○
		ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>	○	○	○
	ニシキギ科	オニツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>strigillosus</i>		○	○
		ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>orbiculatus</i>	○	○	○
		ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>alatus</i>	○	○	
		コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>striatus</i>	○	○	○
		マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>		○	○
		ヒロハツリハナ	<i>Euonymus macropterus</i>		○	
		マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	○	○	○
	ミツハウツギ科	ゴンスイ	<i>Euscaphis japonica</i>	○	○	○
		ミツハウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	○	○	
	ツゲ科	フッキソウ	<i>Pachysandra terminalis</i>			○
	クロウメモドキ科	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>			○
		イソノキ	<i>Frangula crenata</i>	○	○	○
		ケンボナシ	<i>Hovenia dulcis</i>	○	○	○
		クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>	○	○	
		ナツメ	<i>Ziziphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>			○
	ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	○	○	○
		クレハノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i> f. <i>citralloides</i>			○
		ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	○	○	○
		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	○	○	○
		エビヅル	<i>Vitis ficifolia</i>	○	○	○
		サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>			○
		アマヅル	<i>Vitis saccharifera</i>		○	○
	シナノキ科	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis crenata</i>		○	○

表 4-2 生育記録のある植物(13/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	アオイ科	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>			○
被子植物亜門		ムクゲ	<i>Hibiscus syriacus</i>		○	
双子葉植物綱		ウサギアオイ	<i>Malva parviflora</i>			○
離弁花亜綱		ヤノネボンテンカ	<i>Pavonia hastata</i>			○
	アオキリ科	アオキリ	<i>Firmiana simplex</i>		○	○
	ジンチョウゲ科	カンピ	<i>Diplomorpha sikokiana</i>	○	○	○
		ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>	○		
	グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	○	○	○
		トウグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> var. <i>hortensis</i>		○	○
		ホソバナツグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> var. <i>multiflora</i> f. <i>multiflora</i>		○	
		ナリシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>	○	○	
		アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>umbellata</i>		○	○
	イキリ科	イキリ	<i>Idesia polycarpa</i>	○	○	○
	スミレ科	アリアクスミレ	<i>Viola betonicifolia</i> var. <i>albescens</i>		○	○
		ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i>			○
		ヒメヤマスミレ	<i>Viola boissieuana</i>		○	
		ヒコスミレ	<i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>		○	
		エイサンズミレ	<i>Viola eizanensis</i>	○	○	○
		アカフタチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> f. <i>variegata</i>		○	
		タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>grypoceras</i>	○	○	○
		ケリュウタチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>ripensis</i>		○	○
		アオイスミレ	<i>Viola honoensis</i>	○	○	
		ヒメスミレ	<i>Viola inconspicua</i> subsp. <i>nagasakiensis</i>		○	○
		コスミレ	<i>Viola japonica</i>		○	○
		マルバスミレ	<i>Viola keiskei</i>	○		
		オオタチツボスミレ	<i>Viola kusanoana</i>		○	○
		シロバナオオタチツボスミレ	<i>Viola kusanoana</i> f. <i>alba</i>		○	
		スミレ	<i>Viola mandshurica</i>	○	○	○
		ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i>		○	
		ナガバタチツボスミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>		○	
		シロスミレ	<i>Viola patrinii</i>	○	○	
		フモトスミレ	<i>Viola sieboldii</i>	○	○	○
		ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>	○	○	
		フシスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>tokubuchiana</i>		○	
		サンシキスミレ	<i>Viola tricolor</i>			○
		スミレサイシン	<i>Viola vaginata</i>		○	
		ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i>	○	○	○
		アキスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>semilunaris</i>	○	○	○
		ヒメアキスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>subaequiloba</i>		○	○
		マキノスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>makinoi</i>		○	○
		シハイスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>violacea</i>	○	○	○
		バシスミレ	<i>Viola yedoensis</i>	○	○	○
		ヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i>	○	○	
	キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>		○	○
	ミゾハコベ科	ミゾハコベ	<i>Elatine triandra</i> var. <i>pedicellata</i>		○	○
	ウリ科	ゴキツル	<i>Actinostemma tenerum</i>	○	○	○
		アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	○	○	○
		スズメウリ	<i>Neochamandra japonica</i>	○	○	○
		アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>			○
		カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	○	○	○
		キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>			○
		ヒメミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i>		○	○
		サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>			○
		ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>	○	○	○
		キカシグサ	<i>Rotala indica</i>		○	○
		ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>		○	○

表 4-2 生育記録のある植物(14/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ヒシ科	ヒメヒシ	<i>Trapa incisa</i>	○	○	
被子植物亜門		ヒシ	<i>Trapa japonica</i>			○
双子葉植物綱		オニヒシ	<i>Trapa natans</i>		○	
離弁花亜綱	アカバナ科	ミス'タマソウ	<i>Circaea mollis</i>	○	○	○
		アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>	○	○	○
		ヒレタコ'ホウ	<i>Ludwigia decurrens</i>		○	○
		チョウシ'タテ	<i>Ludwigia epilobioides</i>	○	○	○
		ミス'ユキ'ノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>		○	○
		メマツヨイ'グサ	<i>Oenothera biennis</i>	○	○	○
		オオマツヨイ'グサ	<i>Oenothera glazioviana</i>	○	○	○
		ミナトマツヨイ'グサ	<i>Oenothera indecora</i>			○
		コマツヨイ'グサ	<i>Oenothera laciniata</i>		○	○
		アレチマツヨイ'グサ	<i>Oenothera parviflora</i>	○		○
		ユウゲ'ショウ	<i>Oenothera rosea</i>		○	○
		ヒルサ'キツ'キミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>		○	○
		マツヨイ'グサ	<i>Oenothera stricta</i>	○	○	
	アリ'ハ'ウ'グ'サ'科	アリ'ハ'ウ'グ'サ	<i>Haloragis micrantha</i>	○	○	○
		オオ'フ'サ'モ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>			○
		ホ'サ'キ'ノ'フ'サ'モ	<i>Myriophyllum spicatum</i>		○	○
		タ'チ'モ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>		○	
		フ'サ'モ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>		○	○
	ミス'キ'科	ア'オ'キ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		ミス'キ	<i>Cornus controversa</i>	○	○	
		ク'マ'ノ'ミス'キ	<i>Cornus macrophylla</i>			○
		サン'シ'ユ'ウ	<i>Cornus officinalis</i>			○
		ハ'ナ'イ'カ'ダ'	<i>Helwingia japonica</i>	○	○	
	ウ'コ'キ'科	ウ'ト'	<i>Aralia cordata</i>	○	○	○
		タ'ラ'ノ'キ	<i>Aralia elata</i>	○	○	○
		メ'ダ'ラ	<i>Aralia elata</i> f. <i>subinermis</i>			○
		コ'シ'ア'ブ'ラ	<i>Chengiopanax sciadophylloides</i>	○	○	○
		カ'カ'レ'ミ'ノ	<i>Dendropanax trifidus</i>		○	○
		ケ'ヤ'マ'ウ'コ'キ'	<i>Eleutherococcus divaricatus</i>		○	○
		ヒ'メ'ウ'コ'キ'	<i>Eleutherococcus sieboldianus</i>	○	○	
		ヤ'マ'ウ'コ'キ'	<i>Eleutherococcus spinosus</i>	○	○	
		オ'カ'ウ'コ'キ'	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>japonicus</i>			○
		ヤ'ツ'デ'	<i>Fatsia japonica</i>	○	○	○
		タ'カ'ノ'ツ'メ	<i>Gamblea innovans</i>	○	○	○
		キ'ツ'タ	<i>Hedera rhombea</i>	○	○	○
		ハ'リ'キ'リ	<i>Kalopanax septemlobus</i>			○
	セ'リ'科	ノ'ダ'ケ	<i>Angelica decursiva</i>	○	○	○
		シ'ヤ'ク	<i>Anthriscus sylvestris</i> subsp. <i>sylvestris</i>		○	
		ツ'ボ'ク'サ	<i>Centella asiatica</i>	○	○	○
		セ'ント'ウ'ソ'ウ	<i>Chamaele decumbens</i>	○	○	○
		ミ'ツ'ハ'	<i>Cryptotaenia canadensis</i> subsp. <i>Japonica</i>	○	○	○
		ウ'シ'ミ'ツ'ハ'	<i>Cryptotaenia canadensis</i> subsp. <i>japonica</i> f. <i>dissecta</i>			○
		マ'ツ'ハ'セ'リ	<i>Cyclospermum leptophyllum</i>			○
		オ'オ'ハ'チ'ド'メ	<i>Hydrocotyle javanica</i>			○
		ノ'チ'ド'メ	<i>Hydrocotyle maritima</i>		○	○
		オ'オ'チ'ド'メ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	○	○	○
		チ'ド'メ'ク'サ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	○	○	○
		ウ'チ'リ'セ'ニ'ク'サ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>			○
		セ'リ	<i>Oenanthe javanica</i>	○	○	○
		ヤ'ブ'ニ'ン'シ'ン	<i>Osmorhiza aristata</i>	○	○	○
		カ'リ'ラ'ホ'ウ'フ'ウ	<i>Peucedanum terebinthaceum</i>	○		
		ウ'マ'ノ'ミ'ツ'ハ'	<i>Sanicula chinensis</i>	○	○	
		ム'カ'ゴ'ニ'ン'シ'ン	<i>Sium ninsi</i>			○
		ヤ'ブ'シ'ラ'ミ	<i>Torilis japonica</i>	○	○	○
		オ'ヤ'ブ'シ'ラ'ミ	<i>Torilis scabra</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(15/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	イワムス科	オオワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>magnus</i>		○	
被子植物亜門		ワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>	○	○	
双子葉植物綱		イワウチワ	<i>Shortia uniflora</i>		○	
合弁花亜綱	リョウブ科	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	○	○	○
	イチヤクソウ科	キンリョウソウモドキ	<i>Monotropa uniflora</i>		○	
		キンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>	○	○	
		イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i>	○	○	○
	ツツジ科	ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i>	○	○	○
		ヘニドウダン	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>rubens</i>		○	
		コアブラツツジ	<i>Enkianthus nudipes</i>		○	○
		アブラツツジ	<i>Enkianthus subsessilis</i>		○	○
		イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i>	○	○	○
		アカモノ	<i>Gaultheria adenothrix</i>	○		
		イワナンテン	<i>Leucothoe keiskei</i>		○	
		ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>	○	○	○
		ツリガネツツジ	<i>Menziesia ciliicalyx</i>		○	
		アセビ	<i>Pieris japonica</i> subsp. <i>japonica</i>	○	○	○
		ミツハツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>dilatatum</i>	○	○	○
		サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>		○	
		ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>	○	○	○
		ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i>	○	○	○
		ユキダニミツハツツジ	<i>Rhododendron lagopus</i> var. <i>niphophilum</i>		○	○
		モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>	○	○	○
		レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> subsp. <i>japonicum</i>		○	
		サイコクミツハツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i>		○	
		コバノミツハツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>	○	○	○
		ハイクツツジ	<i>Rhododendron semibarbatum</i>	○	○	○
		トウゴクミツハツツジ	<i>Rhododendron wadanum</i>		○	
		シヤンヤンホ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	○	○	○
		ウスノキ	<i>Vaccinium hirtum</i> var. <i>pubescens</i>	○	○	○
		アケシバ	<i>Vaccinium japonicum</i>	○	○	○
		ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>	○	○	○
		スノキ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>glabrum</i>		○	○
	ヤブコウジ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	○	○	○
		カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i>	○	○	
		ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	○	○	○
		イスセンリョウ	<i>Maesa japonica</i>	○	○	○
	サクラソウ科	キンレイカ	<i>Lysimachiaacrodenia</i>		○	
		オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>	○	○	○
		ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>	○	○	○
		ナガエコナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>		○	
		コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	○	○	○
	カキノキ科	リュウキュウマメガキ	<i>Diospyros japonica</i>		○	
		カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	○	○	○
		ヤマガキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>sylvestris</i>		○	
	エコノキ科	エコノキ	<i>Styrax japonica</i>	○	○	○
		ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>		○	
	ハイノキ科	タンナサワフタギ	<i>Symplocos coreana</i>	○	○	○
		ミミスハイ	<i>Symplocos glauca</i>		○	
		クロキ	<i>Symplocos kuroki</i>		○	
		クロミノニシゴリ	<i>Symplocos paniculata</i>	○	○	
		クロバノイ	<i>Symplocos prunifolia</i>		○	○
		サワフタギ	<i>Symplocos sawafutagi</i>	○	○	○
	モクセイ科	ヒツパタコ	<i>Chionanthus retusus</i>		○	
		チョウセンレンギョウ	<i>Forsythia viridissima</i> var. <i>koreana</i>	○	○	
		アオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa</i> f. <i>serrata</i>	○	○	○
		シオン	<i>Fraxinus platypoda</i>		○	
		マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>			○

表 4-2 生育記録のある植物(16/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	モクセイ科	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	○	○	○
被子植物亜門		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>			○
双子葉植物綱		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	○	○	○
合弁花亜綱		ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	○	○	○
	マチン科	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>		○	○
	リンドウ科	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>	○	○	○
		ハルリンドウ	<i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	○	○	○
		アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	○	○	
		センブリ	<i>Swertia japonica</i>	○	○	
		イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	○	○	○
		ツルリンドウ	<i>Tripterospermum trinervium</i>	○	○	○
	ミツガシワ科	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	○		
	キョウチクトウ科	ニチニチソウ	<i>Catharanthus roseus</i>			○
		キョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> var. <i>indicum</i>		○	
		テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>	○	○	○
		ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>			○
	ガガイモ科	コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>		○	
		キシヨラン	<i>Marsdenia tomentosa</i>		○	
		ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	○	○	○
		コカモメヅル	<i>Tylophora floribunda</i>		○	○
		スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>		○	○
		ジョウショウカモメヅル	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> var. <i>auriculatum</i>	○		
		コバノカモメヅル	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> var. <i>sublancoelatum</i>	○	○	○
	アカネ科	アトオシ	<i>Damnacanthus indicus</i>	○	○	○
		オオアトオシ	<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>major</i>		○	○
		ジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i>	○	○	
		ナガバジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i> f. <i>giganteus</i>			○
		オオフタハムグラ	<i>Diodia teres</i>			○
		ヒメヨツハムグラ	<i>Galium gracilens</i>		○	○
		キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i>		○	○
		キヌタソウ	<i>Galium kinuta</i>	○		
		クルマハソウ	<i>Galium odoratum</i>	○		
		ヤマムグラ	<i>Galium pogonanthum</i>	○	○	
		オオバノヤエムグラ	<i>Galium pseudoasprellum</i>		○	
		ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	○	○	○
		ヨツハムグラ	<i>Galium trachyspermum</i>	○	○	○
		ホソバノヨツハムグラ	<i>Galium trifidum</i> subsp. <i>columbianum</i>	○	○	
		カワラマツバ	<i>Galium verum</i> subsp. <i>asiaticum</i> var. <i>asiaticum</i> f. <i>lacteum</i>	○	○	○
		クチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i>	○	○	○
		フタバムグラ	<i>Hedyotis brachypoda</i>		○	○
		ツルアトオシ	<i>Mitchella undulata</i>	○	○	○
		オオハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i> var. <i>glabra</i>		○	○
		ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i> var. <i>hirsuta</i>	○	○	○
		ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	○	○	○
		アカネ	<i>Rubia argyi</i>	○	○	○
	ハナシノブ科	シバサクラ	<i>Phlox subulata</i>		○	
	ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>	○	○	○
		ヒルガオ	<i>Calystegia pubescens</i> f. <i>major</i>	○	○	○
		セイヨウヒルガオ	<i>Convolvulus arvensis</i>			○
		マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>		○	
		アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i>		○	○
		ネナシカズラ	<i>Cuscuta japonica</i>		○	○
		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>		○	○
		マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>			○
		アサガオ	<i>Ipomoea nil</i>			○
		マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>		○	○
		ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>			○

表 4-2 生育記録のある植物(17/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum zeylanicum</i>		○	○
被子植物門		ヤマルリソウ	<i>Omphalodes japonica</i>		○	
双子葉植物綱		ルリソウ	<i>Omphalodes krameri</i>		○	
合弁花亜綱		ミズタビラコ	<i>Trigonotis brevipes</i>		○	○
		キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>	○	○	○
	クマツヅラ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>		○	○
		ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	○	○	○
		ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	○	○	○
		クサキ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	○	○	○
		ヤナキハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>		○	○
		アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>	○	○	○
		マルバクマツヅラ	<i>Verbena stricta</i>		○	
		ダキバアレチハナガサ	<i>Verbena x incompta</i>			○
	アワコケ科	アワコケ	<i>Callitriche japonica</i>	○	○	
		ミズハコベ	<i>Callitriche palustris</i>			○
	シソ科	キランソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	○	○	○
		シロバナキランソウ	<i>Ajuga decumbens</i> f. <i>albiflora</i>		○	
		ジウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>	○	○	
		ツルカコウ	<i>Ajuga shikotanensis</i>		○	
		ニシキゴロモ	<i>Ajuga yesoensis</i>	○	○	
		クルマバナ	<i>Clinopodium chinense</i> subsp. <i>grandiflorum</i>	○	○	○
		ヤマクルマバナ	<i>Clinopodium chinense</i> var. <i>shibetchense</i>		○	
		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	○	○	○
		シモバシラ	<i>Collinsonia japonica</i>	○	○	○
		ナギナタクウジ	<i>Elsholtzia ciliata</i>		○	○
		カキトオシ	<i>Glechoma hederacea</i> subsp. <i>grandis</i>	○	○	○
		ヤマハッカ	<i>Isodon inflexus</i>		○	○
		ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>	○	○	
		アキチョウジ	<i>Isodon longitubus</i>	○	○	
		イヌヤマハッカ	<i>Isodon umbrosus</i>	○		
		オトリコウ	<i>Lamium album</i> var. <i>barbatum</i>		○	○
		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	○	○	○
		ヤマシオウ	<i>Lamium humile</i>		○	
		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	○	○	○
		メハシキ	<i>Leonurus japonicus</i>		○	○
		キセウタ	<i>Leonurus macranthus</i>		○	
		テンニンソウ	<i>Leucosceptrum japonicum</i>		○	
		コシロネ	<i>Lycopus cavaleriei</i>	○	○	
		シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>	○	○	
		ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i>	○	○	
		ニガハッカ	<i>Marrubium vulgare</i>			○
		ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>		○	
		ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>		○	
		ハッカ	<i>Mentha canadensis</i> var. <i>piperascens</i>			○
		オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i>			○
		コショウハッカ	<i>Mentha x piperita</i>			○
		ヒメシソ	<i>Mosla dianthera</i>	○	○	○
		シラゲヒメシソ	<i>Mosla hirta</i>		○	○
		ヤマシソ	<i>Mosla japonica</i>		○	
		イヌコウジ	<i>Mosla scabra</i>	○	○	○
		アオイシソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i> f. <i>viridis</i>			○
		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>			○
		チリメンシソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i> f. <i>crispa</i>		○	○
		スズコウジ	<i>Perillula reptans</i>		○	
		ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>		○	
		ミストラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>		○	
		ウツボグサ	<i>Prunella vulgaris</i> subsp. <i>asiatica</i>	○	○	
		アキナムラソウ	<i>Salvia japonica</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(18/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	シソ科	ナツナムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>		○	
被子植物門		ミゾコウシュ	<i>Salvia plebeia</i>	○	○	○
双子葉植物綱		ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>		○	
合弁花亜綱		タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i>	○	○	
		コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>	○		
		シソバタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i>	○	○	○
		イガタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>kurokawae</i>	○	○	
		ホナガタツナミソウ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>maekawae</i>	○		
		イヌコマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>	○	○	
		ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>	○	○	
		ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>	○	○	
ナス科		チョウセンアサガオ	<i>Datura metel</i>	○		
		クコ	<i>Lycium chinense</i>	○	○	○
		イガホオズキ	<i>Physalisastrum echinatum</i>	○		
		センナリホオズキ	<i>Physalis angulata</i>	○		
		ホオズキ	<i>Physalis alkekengi</i> var. <i>franchetii</i>	○	○	
		ヒロハフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> var. <i>angulata</i>	○		
		ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>			○
		テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>			○
		ウルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>			○
		ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>		○	
		ヒヨドリシヨウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	○	○	○
		マルバノホロシ	<i>Solanum maxinowiczii</i>		○	
		イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	○	○	○
		アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>		○	○
		ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>	○	○	
コマノハグサ科		ウキアゼナ	<i>Bacopa rotundifolia</i>		○	
		サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>		○	○
		アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>		○	○
		オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>		○	
		シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>		○	
		キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>		○	○
		ヒメアメリカアゼナ	<i>Lindernia anagallidea</i>			○
		スズメノトウガラシ	<i>Lindernia antipoda</i>		○	○
		ウリクサ	<i>Lindernia crustacea</i>	○	○	○
		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> subsp. <i>major</i>		○	○
		アゼトウガラシ	<i>Lindernia micrantha</i>		○	○
		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>	○	○	○
		サギコケ	<i>Mazus miquelii</i>	○	○	○
		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	○	○	○
		シコクママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>laxum</i>		○	
		ミヤマママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>nikkoense</i>		○	
		ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>		○	
		スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>		○	○
		ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>	○		
		クチナシグサ	<i>Monochasma sheareri</i>		○	
		マツバウンラン	<i>Nuttallanthus canadensis</i>	○	○	○
		キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>		○	○
		オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>		○	○
		タチイヌフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	○	○	○
		ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>		○	○
		オオイヌフグリ	<i>Veronica persica</i>	○	○	○
		イヌフグリ	<i>Veronica polita</i> var. <i>lilacina</i>	○	○	
		カリヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	○	○	○
ノウゼンカズラ科		キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>		○	○
キツネノマゴ科		オキノツメ	<i>Hygrophila salicifolia</i>		○	○
		シロバナキツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>leucantha</i>		○	
		キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(19/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	キツネノマゴ科	ハグロソウ	<i>Peristrophe japonica</i> var. <i>subrotunda</i>	○	○	○
被子植物亜門	イワタバコ科	イワタバコ	<i>Conandron ramondioides</i>	○	○	○
双子葉植物綱	タヌキモ科	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>			○
合弁花亜綱		ミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i>	○	○	
		タヌキモ	<i>Utricularia japonica</i>		○	○
	ハエトクソウ科	ハエトクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> subsp. <i>asiatica</i>	○	○	○
	オオハコ科	オオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	○	○	○
		ヘラオオハコ	<i>Plantago lanceolata</i>		○	○
		ツボミオオハコ	<i>Plantago virginica</i>		○	○
	スイカズラ科	コクハネウツギ	<i>Abelia serrata</i>	○	○	○
		ツクハネウツギ	<i>Abelia spathulata</i> var. <i>spathulata</i>	○	○	○
		ミヤマウグイスカゲラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i>	○		
		キダチニドウ	<i>Lonicera hypoglauca</i>	○		
		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	○	○	○
		ソクス	<i>Sambucus chinensis</i>		○	
		ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> subsp. <i>sieboldiana</i>	○	○	
		ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	○	○	○
		コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i>	○	○	○
		オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>	○	○	○
		ハクサンボク	<i>Viburnum japonicum</i>		○	
		カンボク	<i>Viburnum opulus</i> var. <i>sargentii</i>		○	
		オトコヨウゾメ	<i>Viburnum phlebotrichum</i>	○		
		ヤブデマリ	<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>		○	
		ゴマキ	<i>Viburnum sieboldii</i>	○	○	
		ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i>	○	○	
		ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>	○	○	
		ニシキウツギ	<i>Weigela decora</i>		○	
		タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>	○	○	○
	オミナエシ科	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	○	○	○
		オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>	○	○	○
		ツルカノコソウ	<i>Valeriana flaccidissima</i>	○	○	
		ノヂシヤ	<i>Valerianella locusta</i>		○	○
	キキョウ科	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>	○		
		ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>	○		
		ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>	○	○	○
		ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>	○	○	○
		シロバナミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i> f. <i>lactiflora</i>	○		
		サワキキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	○	○	○
		タニキキョウ	<i>Peracarpa carnosus</i>	○	○	○
		キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	○	○	○
		キキョウソウ	<i>Triodanis perfoliata</i>		○	○
		ヒナキキョウ	<i>Wahlenbergia marginata</i>	○	○	○
	キク科	ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>	○	○	
		ヌマダikon	<i>Adenostemma lavenia</i>		○	
		モミジハグマ	<i>Ainsliaea acerifolia</i> var. <i>acerifolia</i>	○		
		キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>	○	○	○
		フタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>	○		○
		オオフタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		○	○
		カララハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>	○	○	○
		カララヨモキ	<i>Artemisia capillaris</i>	○	○	
		ヨモキ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	○	○	○
		オトコヨモキ	<i>Artemisia japonica</i>	○	○	
		イヌヨモキ	<i>Artemisia keiskeana</i>		○	○
		ユウガキク	<i>Aster inumae</i>	○	○	
		タニガリコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ripensis</i>		○	
		ノコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>	○	○	○
		キダチコンギク	<i>Aster pilosus</i>		○	○

表 4-2 生育記録のある植物(20/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	キク科	サリシロキク	<i>Aster rugulosus</i>	○	○	
被子植物亜門		ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i>	○	○	
双子葉植物綱		シラヤマキク	<i>Aster scaber</i>	○	○	○
合弁花亜綱		ヤマシロキク	<i>Aster semiamplexicaulis</i>	○	○	
		ヒロハホウキキク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>sandwicensis</i>		○	○
		ホウキキク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>subulatus</i>		○	○
		ヨメナ	<i>Aster yomena</i>	○	○	○
		オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	○	○	
		センダングサ	<i>Bidens biternata</i>	○	○	○
		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	○	○	○
		ホソバノセンダングサ	<i>Bidens parviflora</i>		○	
		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>			○
		アワユキセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	○		
		タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	○	○	
		ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>	○	○	○
		ガシクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i>	○	○	○
		サシガシクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	○	○	○
		ヤグルマキク	<i>Centaurea cyanus</i>			○
		トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>			○
		バシキク	<i>Chrysanthemum japonense</i>	○		
		リュウノウキク	<i>Chrysanthemum makinoi</i>	○	○	○
		ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>	○	○	○
		アズマヤマアザミ	<i>Cirsium microspicatum</i> var. <i>microspicatum</i>	○		
		ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i>	○		
		キセルアザミ	<i>Cirsium sieboldii</i>	○	○	○
		ヤマアザミ	<i>Cirsium spicatum</i>	○		
		スズカアザミ	<i>Cirsium suzukaense</i>		○	○
		サリアアザミ	<i>Cirsium yezoense</i>	○	○	○
		アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>	○	○	○
		ヒメムカシヨモギ	<i>Conyza canadensis</i>	○	○	○
		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	○	○	○
		オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>			○
		コスモス	<i>Cosmos bipinnatus</i>			○
		ヘニバナホロキク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	○	○	○
		ヤクシソウ	<i>Crepidastrum denticulatum</i>		○	○
		アメリカカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>		○	○
		タカサブロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	○	○	○
		ダントホロキク	<i>Erechtites hieracifolius</i>	○	○	○
		ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	○	○	○
		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	○	○	○
		ハコネヒヨドリ	<i>Eupatorium chinense</i> subsp. <i>sachalinense</i> var. <i>hakonense</i>			○
		ヨツバヒヨドリ	<i>Eupatorium glehnii</i>	○		
		フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	○	○	○
		サリヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i> var. <i>lindleyanum</i>	○	○	○
		ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i>	○	○	○
		ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>		○	
		コゴメキク	<i>Galinsoga parviflora</i>		○	
		ハキダメキク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>		○	
		ウラボシ	<i>Gamochaeta coarctata</i>			○
		チチコグサモドキ	<i>Gamochaeta pensylvanica</i>	○	○	○
		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	○	○	○
		チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>	○	○	○
		クワイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		○	○
		キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i>	○	○	○
		スイラン	<i>Hololeion krameri</i>	○	○	
		ブタナ	<i>Hypochaeris radicata</i>			○
		オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	○	○	○
		ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>dentatum</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物 (21/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	キク科	ハニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i> f. <i>amplifolium</i>		○	
被子植物門		オオシシバリ	<i>Ixeris japonica</i>	○	○	○
双子葉植物綱		ニガナ	<i>Ixeris polycephala</i>	○		
合弁花亜綱		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>	○	○	○
		アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>	○	○	○
		ホソバアキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>laciniata</i> f. <i>indivisa</i>			○
		ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>		○	
		ムラサキニガナ	<i>Lactuca sororia</i>		○	○
		コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i>	○	○	○
		ヤブタビラコ	<i>Lapsanastrum humile</i>	○	○	○
		センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>	○	○	
		フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>		○	○
		サワギク	<i>Nemosenecio nikoensis</i>		○	○
		ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>		○	○
		コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	○	○	○
		フキ	<i>Petasites japonicus</i>	○	○	○
		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> subsp. <i>japonica</i>	○	○	○
		シュウブソウ	<i>Rhynchospermum verticillatum</i>	○	○	○
		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	○	○	○
		コマナモミ	<i>Sigesbeckia glabrescens</i>		○	○
		メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>		○	
		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	○	○	○
		オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> subsp. <i>serotina</i>		○	
		アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> subsp. <i>asiatica</i>	○	○	○
		アオヤキバナ	<i>Solidago yokusaiana</i>		○	
		オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	○	○	○
		ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	○	○	○
		ヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>indivisus</i>		○	
		オヤマボクチ	<i>Synurus pungens</i>		○	
		シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>		○	
		セイタカタンポポ	<i>Taraxacum elatum</i>		○	
		カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>	○	○	
		アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		○	
		ヒロハタンポポ	<i>Taraxacum longeappendiculatum</i>	○	○	○
		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		○	○
		カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>		○	
		エゾタンポポ	<i>Taraxacum venustum</i>		○	
		サワオグルマ	<i>Tephrosia pierotii</i>	○	○	○
		イヌカミツレ	<i>Tripleurospermum maritimum</i> subsp. <i>inodorum</i>			○
		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	○	○	○
		オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i>	○	○	
		オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	○	○	○
		アカオニタビラコ	<i>Youngia thunbergiana</i>			○
種子植物門	オモダカ科	ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>		○	
被子植物門		アキノナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	○	○	○
単子葉植物綱		ナガバオモダカ	<i>Sagittaria graminea</i>			○
		ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>		○	
		オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>		○	○
		ホソバオモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i> f. <i>longiloba</i>		○	
	トチカガミ科	スフタ	<i>Blyxa echinosperma</i>		○	○
		ヤナキスフタ	<i>Blyxa japonica</i>		○	○
		オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		○	○
		コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>		○	○
		クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>		○	○
		コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i>			○
		セキシウモ	<i>Vallisneria natans</i>		○	○
	ヒルムシロ科	エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>		○	○
		ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>		○	○

表 4-2 生育記録のある植物(22/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ヒルムシロ科	フヒルムシロ	<i>Potamogeton fryeri</i>		○	○
被子植物門		ゼンニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i>		○	○
単子葉植物綱		ホソハミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i> var. <i>octandrus</i>			○
		ヤナギモ	<i>Potamogeton oxyphyllus</i>		○	○
		ササハモ	<i>Potamogeton wrightii</i>		○	○
	イバラモ科	ホッソモ	<i>Najas graminea</i>		○	○
	ユリ科	ノキラン	<i>Aletris luteoviridis</i>	○	○	○
		ラッキョウ	<i>Allium chinense</i>			○
		ノビル	<i>Allium macrostemon</i>	○	○	○
		ニラ	<i>Allium tuberosum</i>			○
		アマナ	<i>Amana edulis</i>		○	
		ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>	○		
		ツルホ	<i>Barnardia japonica</i>	○	○	○
		ウバユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i>	○	○	
		シライソウ	<i>Chionographis japonica</i>	○	○	○
		ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	○	○	○
		チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	○	○	
		カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	○	○	○
		ショウジョウバカマ	<i>Helonias orientalis</i>	○	○	○
		ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	○	○	○
		ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>		○	○
		オヒガキボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>aequinoctiantha</i>			○
		イワキボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>longipes</i>	○	○	○
		ミスギボウシ	<i>Hosta longissima</i>	○	○	○
		トウキボウシ	<i>Hosta sieboldiana</i>	○	○	○
		コバキボウシ	<i>Hosta sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i> f. <i>spathulata</i>		○	○
		タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum</i>			○
		ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	○	○	○
		オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>		○	
		コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>		○	
		ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>		○	○
		ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	○	○	○
		コヤブラン	<i>Liriope spicata</i>		○	
		ジャハヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		○	○
		カブダチジャハヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>caespitosus</i>			○
		ナガバシヤハヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>	○	○	○
		オオバシヤハヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>			○
		ナルコユリ	<i>Polygonatum falcatum</i>	○	○	
		アマトコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>	○	○	○
		キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i>		○	○
		オモト	<i>Rohdea japonica</i>	○	○	○
		ユキササ	<i>Smilacina japonica</i>		○	
		サルマメ	<i>Smilax biflora</i> var. <i>trinervula</i>	○	○	○
		サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	○	○	○
		タチシオデ	<i>Smilax nipponica</i>	○	○	○
		シオデ	<i>Smilax riparia</i>	○	○	
		ヤマシノホトキス	<i>Tricyrtis affinis</i>	○	○	○
	ヒガンバナ科	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	○	○	○
		キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>		○	
		ナツスイセン	<i>Lycoris x squamigera</i>		○	
		スイセン	<i>Narcissus tazetta</i>		○	
		タマスダレ	<i>Zephyranthes candida</i>		○	○
	ヤマノイモ科	ニガカシユウ	<i>Dioscorea bulbifera</i>	○	○	○
		タチトコロ	<i>Dioscorea gracillima</i>	○	○	○
		ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	○	○	○
		ナガイモ	<i>Dioscorea polystachya</i>		○	
		ヒメトコロ	<i>Dioscorea tenuipes</i>		○	
		オトトコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(23/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	ミスアオイ科	ホテアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>			○
被子植物亜門		コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i>	○	○	○
単子葉植物綱	アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crococsmia x crocosmiiflora</i>			○
		ハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>ensata</i>	○		
		ハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	○	○	
		シヤガ	<i>Iris japonica</i>	○	○	○
		カキツハタ	<i>Iris laevigata</i>	○	○	
		キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	○	○	○
		アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>		○	
		ニワセキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>		○	○
	イグサ科	ハナビセキショウ	<i>Juncus alatus</i>	○	○	
		イグサ	<i>Juncus decipiens</i>	○	○	○
		アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>		○	
		コウガイゼキショウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> subsp. <i>leschenaultii</i>	○	○	○
		ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> var. <i>effusoides</i>	○	○	
		クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	○	○	○
		ハリコウガイゼキショウ	<i>Juncus wallichianus</i>	○		
		スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	○	○	○
		ヤマスズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>		○	
		スカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i> subsp. <i>plumosa</i>	○	○	
	ツユクサ科	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	○	○	○
		イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>	○	○	○
		ヤブシヨウガ	<i>Pollia japonica</i>	○	○	○
		ハハカタカラクサ	<i>Tradescantia flumiensis</i>			○
		ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohiensis</i>			○
	ホシクサ科	ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i>		○	
		イトイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	○	○	○
		イヌノヒゲ	<i>Eriocaulon miquelianum</i>	○		
		クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>		○	
		ヒロハイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon robustius</i>	○		
		シロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon sikokianum</i>		○	○
		ニッポンイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i>		○	○
	イネ科	ヒメスカホ	<i>Agrostis canina</i>		○	
		スカホ	<i>Agrostis clavata</i> subsp. <i>matsumurae</i>	○	○	○
		コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		○	
		ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>		○	
		スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i> var. <i>amurensis</i>	○	○	○
		刈ケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	○	○	○
		コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	○	○	○
		トグシハ	<i>Arundinella hirta</i>	○	○	○
		シロトグシハ	<i>Arundinella hirta</i> var. <i>glauca</i>		○	
		カラスムギ	<i>Avena fatua</i>	○	○	○
		カスノコグサ	<i>Beckmannia syzigachne</i>	○	○	○
		コハンソウ	<i>Briza maxima</i>			○
		ヒメコハンソウ	<i>Briza minor</i>		○	○
		イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		○	○
		スズメノチヤヒキ	<i>Bromus japonicus</i>		○	○
		キツネガヤ	<i>Bromus remotiflorus</i>	○	○	○
		ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i>	○	○	
		ヤマアワ	<i>Calamagrostis epigeios</i>		○	○
		ヒメノガリヤス	<i>Calamagrostis hakonensis</i>		○	○
		チョウセンガリヤス	<i>Cleistogenes hackelii</i>			○
		ジュズタマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>	○	○	○
		オガルカヤ	<i>Cymbopogon tortilis</i> var. <i>goeringii</i>		○	○
		ギョウキシハ	<i>Cynodon dactylon</i>	○	○	○
		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>		○	○
		ヒシハ	<i>Digitaria ciliaris</i>	○	○	○
		コメシハ	<i>Digitaria radicata</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(24/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	イネ科	アキシシバ	<i>Digitaria violascens</i>	○	○	○
被子植物門		カリマタガヤ	<i>Dimeria ornithopoda</i> var. <i>tenera</i>		○	
単子葉植物綱		アブラススキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>		○	○
		ケイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>aristata</i>		○	○
		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>crus-galli</i>		○	○
		ヒメイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>praticola</i>		○	
		ヒエ	<i>Echinochloa esculenta</i>	○		
		タイヌビエ	<i>Echinochloa oryzicola</i>			○
		オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	○	○	○
		ミス'タカモシ'	<i>Elymus humidus</i>		○	
		アオカモシ'グサ	<i>Elymus racemifer</i>		○	○
		タチカモシ'	<i>Elymus racemifer</i> var. <i>japonensis</i>		○	
		カモシ'グサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>	○	○	○
		シナタレスズ'メガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		○	○
		カゼ'クサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	○	○	○
		コスズ'メガヤ	<i>Eragrostis minor</i>		○	○
		ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>	○	○	○
		オオニワホコリ	<i>Eragrostis pilosa</i>	○		○
		ナルコ'ビエ	<i>Eriochloa villosa</i>		○	
		オニウシ'ノケ'グサ	<i>Festuca arundinacea</i>		○	○
		ウシ'ノケ'グサ	<i>Festuca ovina</i>			○
		トボ'シガラ	<i>Festuca parvigluma</i>		○	○
		ムツオレ'グサ	<i>Glyceria acutiflora</i> subsp. <i>japonica</i>	○	○	
		ドシ'ヨウツナギ'	<i>Glyceria ischyronaura</i>		○	○
		チガ'ヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	○	○	○
		チゴ'サ'サ	<i>Isachne globosa</i>	○	○	○
		ハイチゴ'サ'サ	<i>Isachne nipponensis</i>		○	○
		ミノ'ホロ	<i>Koeleria macrantha</i>		○	
		ア'シカキ	<i>Leersia japonica</i>		○	○
		サヤヌカ'グサ	<i>Leersia sayanuka</i>		○	○
		ア'ゼ'ガ'ヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>		○	○
		ネス'ミムキ'	<i>Lolium multiflorum</i>		○	○
		ホ'ソムキ'	<i>Lolium perenne</i>		○	
		ド'クムキ'	<i>Lolium temulentum</i>		○	
		ネス'ミホ'ソムキ'	<i>Lolium x hybridum</i>		○	
		サ'サ'クサ	<i>Lophatherum gracile</i>	○	○	○
		トウ'サ'サ'クサ	<i>Lophatherum sinense</i>		○	
		コメ'ガ'ヤ	<i>Melica nutans</i>	○	○	
		ミチ'シバ	<i>Melica onoei</i>		○	
		サ'サ'ガ'ヤ	<i>Microstegium japonicum</i>	○	○	○
		ア'シ'ホ'ソ	<i>Microstegium vimineum</i> f. <i>vimineum</i>	○	○	○
		オ'キ'	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>		○	○
		ス'スキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	○	○	○
		ヌ'マ'ガ'ヤ	<i>Moliniopsis japonica</i>		○	○
		ネス'ミ'カ'ヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>		○	
		コ'チ'チ'ミ'サ'サ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	○	○	○
		ケ'チ'チ'ミ'サ'サ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>		○	○
		イ'ネ	<i>Oryza sativa</i>			○
		ヌ'カ'キ'ビ'	<i>Panicum bisulcatum</i>	○	○	○
		オ'オ'ク'サ'キ'ビ'	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		○	○
		オ'オ'ヌ'カ'キ'ビ'	<i>Panicum paludosum</i>		○	
		シ'マ'ス'ズ'メ'ノ'ビ'エ	<i>Paspalum dilatatum</i>			○
		キ'シ'ウ'ス'ズ'メ'ノ'ビ'エ	<i>Paspalum distichum</i>			○
		ス'ズ'メ'ノ'ビ'エ	<i>Paspalum thunbergii</i>	○	○	○
		タ'チ'ス'ズ'メ'ノ'ビ'エ	<i>Paspalum urvillei</i>			○
		チ'カ'ラ'シ'バ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	○	○	○
		ク'サ'ヨ'シ	<i>Phalaris arundinacea</i>	○	○	○
		ヨ'シ	<i>Phragmites australis</i>	○	○	○

表 4-2 生育記録のある植物(25/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	イネ科	ツルヨシ	<i>Phragmites japonicus</i>	○	○	○
被子植物亜門		モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i>	○	○	○
単子葉植物綱		ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>		○	○
		マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i>	○	○	○
		ネササ	<i>Pleioblastus argenteostriatus</i> f. <i>glaber</i>	○	○	○
		スタレヨシ	<i>Pleioblastus chino</i> f. <i>pumilus</i>			○
		ケネササ	<i>Pleioblastus shibuyanensis</i> var. <i>basihirsutus</i>	○		○
		メダケ	<i>Pleioblastus simonii</i>		○	○
		ミジイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>	○	○	○
		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	○	○	○
		オオイチゴツナギ	<i>Poa nipponica</i>		○	
		ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>		○	
		イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>		○	○
		ヒユガエリ	<i>Polypogon fugax</i>		○	
		ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>		○	
		ヌメリグサ	<i>Sacciolepis indica</i> var. <i>oryzeterum</i>	○	○	○
		ハイヌメリグサ	<i>Sacciolepis spicata</i> var. <i>spicata</i>		○	○
		スズタケ	<i>Sasa borealis</i>	○	○	
		ビロートミヤコササ	<i>Sasa chartacea</i> var. <i>mollis</i>		○	
		ミヤコササ	<i>Sasa nipponica</i>	○	○	○
		チマキササ	<i>Sasa palmata</i>		○	
		イフキササ	<i>Sasa tsuboiana</i>		○	
		ウシクサ	<i>Schizachyrium brevifolium</i>	○	○	
		イヌアワ	<i>Setaria chondrachine</i>		○	
		アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	○	○	○
		コツブキエノコロ	<i>Setaria pallidifusca</i>		○	○
		キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i>	○	○	○
		エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>	○	○	○
		ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> f. <i>misera</i>		○	○
		オカメササ	<i>Shibataea kumasasa</i>		○	
		セイハンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>		○	○
		ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>		○	○
		カエツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>	○	○	○
		ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i>		○	
		マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	○	○	○
		シハ	<i>Zoysia japonica</i>	○	○	○
ヤシ科		シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>		○	○
サトイモ科		ショウブ	<i>Acorus calamus</i>		○	○
		セキショウ	<i>Acorus gramineus</i>		○	○
		マムシグサ	<i>Arisaema japonicum</i>	○	○	○
		ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>urashima</i>		○	
		スルガテンナンショウ	<i>Arisaema yamatense</i> subsp. <i>sugimotoi</i>		○	
		カラスビシヤク	<i>Pinellia ternata</i>	○	○	○
		オオハンゲ	<i>Pinellia tripartita</i>		○	
ウキクサ科		アオウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i>		○	○
		ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>		○	
		ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>		○	○
ミクリ科		ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>		○	○
ガマ科		ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>		○	
		ガマ	<i>Typha latifolia</i>	○	○	
		コガマ	<i>Typha orientalis</i>		○	
カヤツリグサ科		ハタカヤ	<i>Bulbostylis barbata</i>	○	○	
		シラスゲ	<i>Carex alopecuroides</i> var. <i>chlorostachya</i>	○	○	○
		エナシヒコクサ	<i>Carex aphanolepis</i>		○	
		クロカワスゲ	<i>Carex arenicola</i>		○	
		マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>		○	
		ショウショウスケ	<i>Carex blepharicarpa</i>		○	
		メアオスケ	<i>Carex candolleana</i>		○	

表 4-2 生育記録のある植物(26/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地	
種子植物門	カヤツリグサ科	ヒルカスゲ*	<i>Carex conica</i>		○	○	
被子植物門		ナルコスゲ*	<i>Carex curvicollis</i>		○		
単子葉植物綱		オオスゲ*	<i>Carex dickinsii</i>			○	○
		アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>		○	○	○
		カサスゲ*	<i>Carex dispalata</i>		○	○	○
		オクノカンスゲ*	<i>Carex foliosissima</i>			○	
		マスキサ	<i>Carex gibba</i>		○	○	○
		クロヒナスゲ*	<i>Carex gifuensis</i>		○	○	○
		ヒナスゲ*	<i>Carex grallatoria</i> var. <i>grallatoria</i>			○	
		コハリスゲ*	<i>Carex hakonensis</i>			○	
		ウマスゲ*	<i>Carex idzuroei</i>			○	
		ジュズスゲ*	<i>Carex ischnostachya</i>		○	○	○
		ヒコウサ	<i>Carex japonica</i>			○	○
		テキリスゲ*	<i>Carex kiotensis</i>		○		
		ヒカゲスゲ*	<i>Carex lanceolata</i>		○	○	
		ナキリスゲ*	<i>Carex lenta</i> var. <i>lenta</i>		○	○	○
		アオスゲ*	<i>Carex leucochlora</i>		○	○	○
		トアオスゲ*	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>filiculmis</i>			○	
		オオアオスゲ*	<i>Carex lonchophora</i>			○	
		ヤガミスゲ*	<i>Carex maackii</i>			○	○
		タチスゲ*	<i>Carex maculata</i>		○		
		ゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i>			○	○
		ヒメシラスゲ*	<i>Carex mollicula</i>			○	
		カンスゲ*	<i>Carex morrowii</i>		○		
		ミヤマカンスゲ*	<i>Carex multifolia</i>		○		
		ミソシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>				○
		ミノボロスゲ*	<i>Carex nubigena</i> subsp. <i>albata</i>				○
		カリススゲ*	<i>Carex omiana</i> var. <i>monticola</i>			○	
		オタルスゲ*	<i>Carex otaruensis</i>			○	
		ヒメゴウソ	<i>Carex phacota</i>			○	
		ホンモンジスゲ*	<i>Carex pisiformis</i>		○		
		マメスゲ*	<i>Carex pudica</i>			○	
		コカンスゲ*	<i>Carex reinii</i>				○
		ヤブスゲ*	<i>Carex rochebrunei</i>		○	○	
		クサスゲ*	<i>Carex rugata</i>			○	
		オオイトスゲ*	<i>Carex sachalinensis</i> var. <i>alterniflora</i>			○	
		タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>		○	○	○
		ミチノクホンモンジスゲ*	<i>Carex stenostachys</i> var. <i>cuneata</i>		○		
		ニシノホンモンジスゲ*	<i>Carex stenostachys</i> var. <i>stenostachys</i>		○	○	○
		アゼスゲ*	<i>Carex thunbergii</i>			○	○
		ヤワラスゲ*	<i>Carex transversa</i>		○	○	○
		モエキスゲ*	<i>Carex tristachya</i>			○	○
		ヒメモエキスゲ*	<i>Carex tristachya</i> var. <i>pocilliformis</i>			○	
		チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>				○
		アイダクゲ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>brevifolius</i>				○
		ヒメクゲ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leirolepis</i>		○	○	○
		クゲガヤツリ	<i>Cyperus compressus</i>			○	○
タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>		○	○	○		
刈ケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>			○	○		
ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i>			○	○		
アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i>		○	○			
コアゼガヤツリ	<i>Cyperus haspan</i> var. <i>tuberiferus</i>		○	○	○		
ココメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>		○	○	○		
カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>		○	○	○		
ウシクゲ	<i>Cyperus orthostachyus</i>		○	○			
シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>				○		
オニガヤツリ	<i>Cyperus pilosus</i>		○		○		
イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>		○	○			

表 4-2 生育記録のある植物(27/27)

分類	科名	和名	学名	文献	資料	現地
種子植物門	カヤツリグサ科	ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>		○	○
被子植物亜門		カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>	○	○	○
単子葉植物綱		ミスガヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i>		○	
		マツハイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>longiseta</i>		○	
		オオハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>congesta</i>			○
		ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○
		クログワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>		○	○
		シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>	○	○	○
		ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i>	○	○	○
		ノテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i> f. <i>exaltata</i>		○	○
		クグテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>diphylla</i>			○
		テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>	○	○	○
		クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i>			○
		ヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i>	○	○	○
		アゼテンツキ	<i>Fimbristylis squarrosa</i>		○	
		ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>	○	○	○
		ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i>		○	○
		イヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora rugosa</i>	○		
		ホタルイ	<i>Schoenoplectus hotarui</i>	○	○	○
		イヌホタルイ	<i>Schoenoplectus juncooides</i>		○	
		フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>		○	
		カンガレイ	<i>Schoenoplectus triangulatus</i>		○	
		サンカクイ	<i>Schoenoplectus triqueter</i>		○	
		コマツカサスキ	<i>Scirpus fuirenooides</i>	○		
		アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i> f. <i>concolor</i>	○	○	○
ショウガ科		ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>	○	○	○
		ショウガ	<i>Zingiber officinale</i>		○	
ラン科		シラン	<i>Bletilla striata</i>			○
		マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>			○
		ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>			○
		エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	○		
		ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>			○
		キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>			○
		サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i> var. <i>variabilis</i>	○	○	
		シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>	○	○	○
		ツチアケビ	<i>Cyrtosia septentrionalis</i>			○
		セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i>	○	○	○
		カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	○	○	○
		オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i>	○	○	
		ハルサキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>			○
		クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>			○
		アキサキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>			○
		アケボノシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>laevis</i>	○	○	○
		ミヤマウスラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>	○	○	○
		ジガハチソウ	<i>Liparis krameri</i>	○	○	○
		コクラン	<i>Liparis nervosa</i>	○	○	○
		コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>			○
		サキソウ	<i>Pecteilis radiata</i>	○	○	○
		ノヤマトンボ	<i>Platanthera minor</i>	○	○	
		トンボソウ	<i>Platanthera ussuriensis</i>			○
		ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	○	○	○
		カヤラン	<i>Thrixspermum japonicum</i>			○
	160科	1,538種		858種	1,313種	958種

注)表中の「文献」「資料」の欄は、13-3-1に示した「文献」「資料」に記載のあった種を示す。また「現地」については、2009～2013年度に実施した現地調査で記録された種を示す。

4-1-3 重要な植物

岐阜市内で確認されている重要な植物¹¹は、表 4-3 のとおり 58 科 110 種で、全生育種数の 7%にあたる。内訳をみると、県および市条例指定種が各 1 種、環境省レッドリストに記載の種が 53 種、県レッドリストに記載の種が 93 種となっている。重要な植物のうち、ミズニラ、イヌスギナ、コハナヤスリなど 69 種については文献・資料のみでの記録で、岐阜県条例指定種であるセッコクや岐阜市条例指定種であるヒメコウホネなど残りの 41 種が 2009～2013 年度に実施した現地調査でも記録された種である。

市内でみられる貴重な植物を生育環境別にみると、河川やため池など水環境およびその周縁に生育する植物は、サデクサ、バイカモ、ヒメコウホネ、ヒツジグサ、マツモ、イヌタヌキモ、タヌキモ、スブタ、ヤナギスブタ、コウガイモ、ナガエミクリなどの水生植物のほか、ミゾコウジュ、カワヂシャ、フジバカマなどが挙げられる。また湿地や水田、放棄水田など湿潤な環境に生育する種はミズマツバ、ミズユキノシタ、シソクサ、スズメノハコベ、スイラン、アギナシ、カキツバタ、カキラン、サギソウなどが挙げられる。さらに、耕作地周辺など身近な環境に生育している種としては、アイナエ、イヌセンブリ、スズサイコ、オミナエシ、キキョウなどが挙げられる。このように、岐阜市内で見られる重要な植物には、河川や水辺、耕作地といった比較的身近な環境に生育している種が多く含まれており、こうした身近な環境をいかに保全していくかが今後の重要な課題といえる。

2009～2013 年度に実施した現地調査で確認された重要な植物(41 種)の概要・分布状況などは、表 4-4 のとおりである。

表 4-3 生育記録のある重要な植物(1/4)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
ミズニラ科	ミズニラ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
トクサ科	イヌスギナ						絶滅危惧Ⅰ類
ハナヤスリ科	コハナヤスリ						絶滅危惧Ⅰ類
コケシノブ科	ウチワコケ					絶滅危惧ⅠB類	
チャセンシダ科	ヒメイトラノオ						絶滅危惧Ⅰ類
	カミガモシダ [*]						準絶滅危惧
	トキワシダ [*]						絶滅危惧Ⅰ類
オシダ科	ホソバ [*] カナワラビ [*]						準絶滅危惧
	メヤブ [*] ソテツ						絶滅危惧Ⅰ類
	オワセ [*] ヘニシダ [*]						絶滅危惧Ⅱ類
ウラボシ科	ミヤマウラボシ						絶滅危惧Ⅱ類
ブナ科	クヌギ [*]						情報不足
	カシ [*]						情報不足

¹¹ 重要な植物：以下の 6 文獻に記載のある種を対象とした。

- ・「文化財保護法」：「文化財保護法」（法律第 214 号，昭和 25 年 5 月 30 日）および文化財保護法に関する条例
- ・「種の保存法」：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（法律第 76 号，平成 4 年 6 月 5 日）
- ・「県条例」：「岐阜県希少野生生物保護条例」（岐阜県条例第 22 号，平成 15 年 3 月）
- ・「市条例」：「岐阜市自然環境の保全に関する条例」（岐阜市条例第 20 号，平成 15 年 3 月）
- ・「環境省 RL」：「環境省レッドリスト-植物Ⅰ（維管束植物）-」（環境省，2012 年）
- ・「県 RL」：「岐阜県レッドリスト-植物編-」（平成 25 年 岐阜県）

表 4-3 生育記録のある重要な植物(2/4)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
イラクサ科	トキホコリ					絶滅危惧Ⅱ類	
	サンショウソウ						絶滅危惧Ⅱ類
	ミヤコミズ						絶滅危惧Ⅰ類
ヤトリギ科	マツグミ					準絶滅危惧	
タデ科	サデクサ						準絶滅危惧
	ホソバノウナギツカミ						準絶滅危惧
	ウナギツカミ						準絶滅危惧
	ヌカホタデ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ナデシコ科	アオハコベ					絶滅危惧Ⅱ類	
モクレン科	オヤマレンゲ						準絶滅危惧
	シデコフシ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
クスノギ科	ニッケイ					準絶滅危惧	
	イヌガシ						絶滅危惧Ⅱ類
キンボウゲ科	カサグルマ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	ハイカモ						絶滅危惧Ⅱ類
メギ科	ヘビノボラス						絶滅危惧Ⅱ類
スイレン科	オグラコウホネ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ヒメコウホネ					貴重野生動植物種 絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ヒツジグサ						準絶滅危惧
マツモ科	マツモ						準絶滅危惧
オキリソウ科	ヒメオトギリ						絶滅危惧Ⅱ類
	アゼオトギリ					絶滅危惧ⅠB類	
モウセンゴケ科	イシモチソウ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
ケシ科	キケマン						準絶滅危惧
ベンケイソウ科	ツメレンゲ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
バラ科	カワラサイコ						準絶滅危惧
マメ科	クサフジ						絶滅危惧Ⅱ類
トウダイグサ科	ノウルシ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
カエデ科	ハナノキ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
スミレ科	ヒコスミレ						絶滅危惧Ⅰ類
	シロスミレ						絶滅危惧Ⅰ類
ウリ科	ゴキツル						準絶滅危惧
ミハギ科	ミスマツハ					絶滅危惧Ⅱ類	
ヒシ科	ヒメヒシ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
アカハナ科	ミスユキノシタ						準絶滅危惧
アリハウグサ科	タチモ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
ヤブコウジ科	カラタチハナ						準絶滅危惧
モクセイ科	ヒトツバタゴ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	シオン						情報不足
マチン科	アイナエ						絶滅危惧Ⅱ類
リンドウ科	イヌセンブリ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
ミツガシワ科	ガガブタ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
ガガイモ科	スズサイコ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
アカネ科	ジユズネノキ						絶滅危惧Ⅰ類
ヒルガオ科	マメダオシ					絶滅危惧ⅠA類	情報不足

表 4-3 生育記録のある重要な植物(3/4)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
シソ科	ツルカコソウ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	シモバシラ						絶滅危惧Ⅰ類
	キセウタ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ヤマシソ					準絶滅危惧	
	ミズネコノオ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
	ミストラノオ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ミヅコウシュ					準絶滅危惧	
	ヒメナミキ						準絶滅危惧
	ホナガタツナミソウ						準絶滅危惧
ゴマノハクサ科	オオアブノメ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	シソクサ						準絶滅危惧
	スズメノハコベ					絶滅危惧Ⅱ類	
	イヌノフグリ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	カワチシヤ					準絶滅危惧	
タヌキモ科	イヌタヌキモ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
	タヌキモ					準絶滅危惧	
オミナエシ科	オミナエシ					準絶滅危惧	
キキョウ科	キキョウ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
キク科	オケラ						絶滅危惧Ⅱ類
	フジバカマ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	スイラン						準絶滅危惧
	オナモミ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
オモダカ科	アキナシ					準絶滅危惧	
トチカガミ科	スフタ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ヤナキスフタ						絶滅危惧Ⅱ類
	コウガイモ						絶滅危惧Ⅱ類
ヒルムシロ科	ヒルムシロ					絶滅危惧Ⅰ類	
ユリ科	コオニユリ					準絶滅危惧	
アヤメ科	カキツバタ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
イグサ科	ホソイ						準絶滅危惧
ホシクサ科	クロホシクサ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
イネ科	ヒメコヌカグサ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ミス'タカモシ'					絶滅危惧Ⅱ類	
	オオヌカキヒ'					絶滅危惧ⅠA類	
ウキクサ科	ヒンジモ					絶滅危惧Ⅱ類	
ミクリ科	ナガ'エミクリ					準絶滅危惧	
カヤツリグサ科	クロヒナスゲ'						絶滅危惧Ⅱ類
	ウマスゲ'						絶滅危惧Ⅱ類
	オオアオスゲ'						絶滅危惧Ⅱ類
ラン科	シラン					準絶滅危惧	
	マメヅ'タラン					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ムギ'ラン					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	エビ'ネ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	キン'ラン						準絶滅危惧

表 4-3 生育記録のある重要な植物(4/4)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
ラン科	キンラン					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ツチアケビ						準絶滅危惧
	セッコク			指定希少野生生物			絶滅危惧Ⅰ類
	カキラン						準絶滅危惧
	ハルサキヤツシロラン					絶滅危惧Ⅱ類	
	アキサキヤツシロラン						準絶滅危惧
	コケイラン						準絶滅危惧
	サキソウ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
58科	110種	0種	0種	1種	1種	53種	93種

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

- 県条例 指定希少野生生物：本県における生息状況が、人為の影響によりその存続に支障を来す事情が生じていると判断される種
- 市条例 貴重野生動植物：本市に生息又は生育する野生の動植物(卵、種子などを含む)のうち、生息又は生育数が著しく少なく、又は著しく減少しつつある種で、規則で定めるもの。
- 環境省 RL 絶滅危惧ⅠA類：(CR)、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
 絶滅危惧ⅠB類：(EN)、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
 絶滅危惧Ⅱ類：(VU)、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。
 準絶滅危惧：(NT)、現時点での絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。
- 県 RL 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
 情報不足：県内において、評価するだけの情報が不足している種。

表 4-4 重要な植物の概要等(1/9)


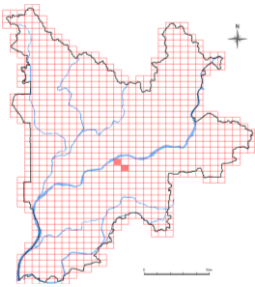
種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ウチワゴケ <i>Crepidomanes minutum</i></p> <p>シダ植物門 (PTERIDOPHYTA) コケシブ科 (Hymenophyllaceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧ⅠB類</p>	<p>【種概要】岩上や樹幹上に生育する常緑性のシダ植物。根茎は細長く横走し、暗褐色の毛が密生する。葉は直径15mm前後のうらわ形で、辺縁は不規則に浅裂～深裂する。北海道と東北地方ではやや稀であるが、関東地方西部以西、沖縄、小笠原などではごく普通に生育する。低地のやや空中湿度の高い森林内などに生じる。別名：ムニンホラゴケ。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市中部～北東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影：佐藤克則</p>
<p>ホソバカナワラビ <i>Arachniodes aristata</i></p> <p>シダ植物門 (PTERIDOPHYTA) オシダ科 (Dryopteridaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】常緑性のシダ植物。葉は3回羽状複生から4回羽状深裂で、胞子葉では長さ50cmを超えることがある。羽片は5～10対で、最下のものが最も大きく、上部に行くほど短くなる。先端はさらに急に短くなり、頂羽片状となる。根茎は長く横走し、赤褐色の鱗片を付ける。葉柄はわら色で基部は褐色で鱗片が多い。本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球の暖地でやや乾いた山地の林床に生育し、しばしば群生する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>

表 4-4 重要な植物の概要等 (2/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>メヤブソテツ <i>Cyrtomium caryotideum</i></p> <p>シダ植物門 (PTERIDOPHYTA) オシダ科 (Dryopteridaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】常緑性のシダ植物で、葉は頂羽片の発達する単羽状複生。長さは50cmに達することがある。側羽片は2~6対で短い柄があり、頂羽片共に革質。辺縁には鋭鋸歯がある。胞子嚢群は葉裏に多数散在し、胞膜は灰白色で、辺縁は不規則な鋸歯縁となる。本州(関東以西)、四国、九州の山地に稀に産し、石灰岩地で土のたまった岩隙などに生育することが多い。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市西部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>
<p>サンショウソウ <i>Pellionia minima</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) イラクサ科 (Urticaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】山地の林床に生える多年草。茎は高さ10~30cmで、基部は多少分岐し地上を這う。葉は倒卵形で辺縁には4~5対の鈍鋸歯がある。花は3~6月。葉柄の基部に付ける。本州(関東以西)~琉球に分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市中部~北部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 則行雅臣</p>
<p>ミヤコミズ <i>Pilea kiotensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) イラクサ科 (Urticaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】山地のやや湿った場所に生える一年草で、草丈は20~40cm。植物体はやや多汁でやわらかい。葉は対生し、狭卵形~長楕円形で長さ3~12cm、先は尾状に尖り、基部はくさび形。葉縁にはまばらに鋸歯があり、葉面には3脈が目立つ。花期は9~10月。葉腋に集散花序がつく。花序の柄には乳頭状の短毛がある。本州(近畿以西)~九州北部に分布する。最初に京都付近で発見されたことから都ミズの名がついたと言われている。 【県内分布】県南部に分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>サデクサ <i>Persicaria maackiana</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) タデ科 (Polygonaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】低地の水辺に生える一年草で、草丈は30~100cmになる。茎は斜上し多くの枝を分け、鋭い下向きの刺毛がある。葉は有柄、披針状長楕円形~披針形、先端は鋭形で基部は鈍型となる。葉の両面には星状毛を密生し、長さ3~8cm、幅2~7cm。花期は7~10月。短い頭状の総状花序で、白色(果時には紅色)の2~5の花をつける。本州~九州に分布する。 【県内分布】県西部~中部、南部に分布する。 【市内分布】市西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>アオハコベ <i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>apetala</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) ナデシコ科 (Caryophyllaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】山地の林床に生える多年草。茎は地面を長く這い、斜上し高さ20~30cm。葉は対生でほとんど柄は無く、長さ1~2.5cm、幅0.8~2.5cm、先は鋭形で茎とともに分枝毛や星状毛がある。花期は4~6月だが花卉が無い。本州(近畿以西)~九州に分布する。花卉のあるものをヤマハコベという。 【県内分布】県西部~中部に分布する。 【市内分布】市北西部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>

表 4-4 重要な植物の概要等 (3/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>バイカモ <i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) キンポウゲ科 (Ranunculaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】 浅くてきれいな流水に生える多年生の沈水植物。茎は長さ1~2mにもなり、節から根を出す。葉は3~4回3出し、裂片はさらに2分裂し全体的に房状になる。花期は6~8月。葉腋に単生し梅に似た白色の花をつける。日本特産種で、北海道と本州に生育する。 【県内分布】 県北部~中部、西部に分布する。 【市内分布】 市西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>ヒメコウホネ <i>Nuphar subintegerrima</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) スレン科 (Nymphaeaceae)</p> <p>岐阜市条例: 貴重野生動物 環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】 湖沼、ため池、河川の淀みなどに生育する多年生の浮葉植物。地下茎で広がる。沈水葉は広卵形で薄い膜質。浮葉と抽水葉は広卵形~円心形で革質。花期は6~10月、花は径2.5~4cmで黄色。花弁と思われるものは顎であり、花弁はその内側の顎状のものである。本州~九州に分布する。 【県内分布】 県北部~中部、東部に分布する。 【市内分布】 市北西部、中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>ヒツジグサ <i>Nymphaea tetragona</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) スレン科 (Nymphaeaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】 古い池や沼に生育する多年生の浮葉植物。太短い塊状の根茎から葉を根生する。沈水葉は薄く幅広い矢じり形~半円形で、浮葉は革質の楕円形~卵形で基部は深く切れ込む。花期は6~11月、径3~7cmで多数の白色の花弁からなる。北海道~九州に広く分布している。 【県内分布】 県北部~中部、東部に分布する。 【市内分布】 市北部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>マツモ <i>Ceratophyllum demersum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) マツモ科 (Ceratophyllaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】 池や河川に生育する多年生の沈水植物。根は無く、水中に浮遊していることが多い。茎は20~120cm、盛んに分枝する。葉は5~10個が輪生し、線状の裂片が1~2回二又状に分かれ、裂片の辺縁には鋸歯がある。花期は5~8月。花を付けない個体も多い。北海道~琉球に広く分布する。別名: キンギョモ。 【県内分布】 県中部に分布する。 【市内分布】 市西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>ヒメオトギリ <i>Hypericum japonicum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) オキギリウ科 (Guttiferae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】 放棄水田や山沿いの小湿地に生育する草丈15~40cmの一年草。茎は4稜形で細く、上方で分枝する。葉は三角状卵形で円頭、長さ5~13mmで基部はなかば茎を抱く。葉には多数の小さな明点が入り、縁に腺体は見られない。花期は8~9月。径7~8mmの橙黄色の花をつける。本州(千葉県・東海地方以西)~琉球に生育する。 【県内分布】 県北部~中部、東部に分布する。 【市内分布】 市北西部、北東部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>

表 4-4 重要な植物の概要等(4/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ツメレンゲ <i>Orostachys japonica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) ヘンタイウ科 (Crassulaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】日当りの良い岩上や屋根上に生える多年草。多肉で披針形の葉を密集させ顕著なロゼットとなる。花期は10～11月。高さ8～30cmの筒状の花茎に多数の白色の花をつける。本州(関東以西)～九州に分布する。夏季のロゼットは径12cmにもなる。</p> <p>【県内分布】県北部～中部、東部に分布する。</p> <p>【市内分布】市中部～東部に生育記録がある。</p>	 <p>非公開</p>	 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>ゴキヅル <i>Actinostemma tenerum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) ウリ科 (Cucurbitaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】水辺に生育する一年生のつる植物。葉は三角状披針形で先は尖り、長さ3～10cm。花期は8～11月。径7mm程度の黄緑色の花をつける。果実は長さ2cm程度の卵状で、熟すと中央で上下に分かれる。この状況からゴキヅル(合器蔓)の名がある。本州～九州に分布する。</p> <p>【県内分布】県中部に分布する。</p> <p>【市内分布】市西部～南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>ミズマツバ <i>Rotala mexicana</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) シハキ科 (Lythraceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】水田や湿地に生える小さな一年草。茎の基部は普通地面を這い、分枝して高さ3～10cmになる。葉は4枚輪生し、線形～長披針形、長さ6～10mm、幅1～2mm。花期は8～10月。葉腋に単生し柄がない淡紅色の花をつける。本州～琉球に分布する。除草剤など使用していない水田などではごく普通にみられる水田雑草の一つ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。</p> <p>【市内分布】市北西部～西部、東部～南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>ミズユキノシタ <i>Ludwigia ovalis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アハナ科 (Onagraceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】水辺に生育するやわらかい多年草。茎の下部は長く這い、上部は斜上・分枝し、長さ20～40cmになる。葉は互生し、広卵形～楕円状卵形。長さ1～2.5cm、幅1～1.8cm。花期は7～10月。葉腋に直径2mm程度の花をつけるが花弁は無い。本州～琉球に分布する。</p> <p>【県内分布】県西部、中部、東部に分布する。</p> <p>【市内分布】市西部、北東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>アイナエ <i>Mitrasacme pygmaea</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) マチン科 (Loganiaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】日当りの良い暖地の低湿地に生える小さな一年草。茎は短く、花茎を除いて0.5～1cm程度。葉は対生で2～4対つき、卵形または長楕円形、長さ5～15mm、幅3～6mm。花期は8～9月。茎頂や葉腋から高さ2～10cmの花茎を1～3本伸ばし3～15の花を散形状につける。本州～琉球に分布する。</p> <p>【県内分布】県中部、東部に分布する。</p> <p>【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 野々目徳弘</p>

表 4-4 重要な植物の概要等 (5/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>イヌセンブリ <i>Swertia tosaensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) リンドウ科 (Gentianaceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】山野のやや湿った場所に生える一年草あるいは越年草。茎は基部から分枝し、高さ5~30cm。葉は倒披針形で長さ2~5cm。花期は10~11月。花弁は白色で淡紫色の条があり、径15mm、5深裂する。全草には苦味が無く、同属のセンブリのように葉には用いられない。本州~九州に分布する。 【県内分布】県中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>スズサイコ <i>Vincetoxicum pycnostelma</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ガガイモ科 (Asclepiadaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】日当たりの良いやや乾いた草地に生える多年草。茎は細く、直立して高さ40~100cm。葉は対生で、長披針形~線状長楕円形、長さ6~13cm、幅4~15mm。花期は7~8月。花序は茎の先や葉腋から出、2~3cmの総花柄があり、集散状に黄褐色の花をつける。袋果は細長い披針形で長さ5~8cmになる。北海道~九州に分布する。以前は耕作地の法面などにもよく見られたが、草刈などの管理の減少により減少傾向にある。 【県内分布】県北部、西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>シモバシラ <i>Collinsonia japonica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) シソ科 (Labiatae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】山の木陰に生える多年草。茎は四角で高さ40~70cm。葉は対生で8~20cm、幅3~5.5cm、鋸歯縁で両端は尖り、短い葉柄がある。花期は9~10月。葉腋から白色の花冠を持つ総状花序を出す。本州~九州に分布する。冬季、枯れた根元から霜柱に似た氷柱が出る特性からこの名がある。 【県内分布】県中部に分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>ミゾコウジュ <i>Salvia plebeia</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) シソ科 (Labiatae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】湿った草地や河原、畦などに生える越年草。茎は四角で直立し高さ30~70cm。下向きの毛がある。葉は対生で長楕円形、短い柄があり長さ3~6cm、幅1~2cm、辺縁には鈍い鋸歯がある。花期は5~6月。8~10cmに伸びた花穂に淡紫色の花をつける。本州~琉球に分布する。 【県内分布】県西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市北東部~中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>シソクサ <i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】湿地に生える一年草。茎は直立してあまり分枝せず高さ10~30cm。葉は対生し、柄が無く長楕円形で、長さ10~25mm、幅3~10mm、少数の鋸歯がある。葉には多くの油点があり、透かして見ると確認できる。これがシソの香りを出す。花期は9~10月。上部の葉腋から長さ7~15mmの花柄を出し、白色筒型の1花をつける。本州(関東以西)~琉球南部に分布する。 【県内分布】県北部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市北部、中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>

表 4-4 重要な植物の概要等 (6/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>スズメノハコベ <i>Microcarpaea minima</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】休耕田など湿った場所に生える小さな一年草。茎は多く分枝して地表を匍匐し、節ごとに細い根と小さな葉をつける。葉は対生し柄がなく、長さ2~5mm、幅1~2mm。花期は7~10月。花は淡紅色で葉腋に1個づつつける。本州(関東以西)~琉球に分布する。 【県内分布】県西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市北西部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>カワヂシャ <i>Veronica undulata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】川岸、溝など湿った場所に生える越年草。茎は直立して高さ10~50cm。葉は披針形または長楕円状披針形で、辺縁には鋸歯があり、先はやや尖り、基部は柄が無く茎を抱く。花期は5~6月。葉腋に5~15cmの細い花序を出し、淡紅紫色の花を15~50個つける。本州(中部以西)~琉球に分布する。 【県内分布】県中部~南部に分布する。 【市内分布】市北西部~中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>イヌタヌキモ <i>Utricularia australis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) タヌキモ科 (Lentibulariaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】低地のため池に生育する多年生の浮遊植物。茎は細く径0.3~2mm、長さ1mに達する。葉は全体の長さが1.5~4.5cm、基部で2本に分枝し、さらに二又状に何回か分枝する。捕虫囊を持ち、プランクトンなどを捕食し栄養源とするいわゆる食虫植物である。花期は7月~9月。花茎は長さ10~30cmで水上に3~10個の黄色い花をつける。花茎の断面は中実、殖芽は長楕円形、長さ4~10mm。本州~九州の低地に分布する。 【県内分布】県北部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>タヌキモ <i>Utricularia japonica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) タヌキモ科 (Lentibulariaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】低地のため池に生育する多年生の浮遊植物。茎は細く径2~3.5mm、長さ1mに達する。葉は全体の長さが2~6cm、基部で2本に分枝し、さらに二又状に何回か分枝、各裂片は糸状。捕虫囊を持ち、プランクトンなどを捕食し栄養源とするいわゆる食虫植物である。花期は7月~9月。花茎は長さ10~30cmで水上に3~10個の黄色い花をつける。花茎の断面に小さな穴がある。殖芽はほぼ球形、径1~2cm。北海道~九州に分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>オミナエシ <i>Patrinia scabiosifolia</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) オミナエシ科 (Valerianaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】日当たりの良いやや乾いた草地に生える多年草。茎は高さ60~100cm。葉は対生し、頭大羽状に深裂。花期は8~10月。集散花序に多数の黄色い小花をつける。北海道~九州に分布する。以前は耕作地の法面などにもよく見られ秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理の減少により減少傾向にある。 【県内分布】県北部、西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 野々目徳弘</p>

表 4-4 重要な植物の概要等 (7/9)


種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>キキョウ <i>Platycodon grandiflorus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キキョウ科 (Campanulaceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】山野の草地に生える多年草。茎は高さ50～100cm。葉は互生、まれに対生・輪生となり、狭卵形で長さ4～7cm、先は尖り、縁には鋭鋸歯がある。花期は7～8月。茎頂近くに径4～5cmの青紫色の花をつける。北海道～九州・奄美諸島に分布する。根茎は桔梗根として薬用にされる。以前は耕作地の法面などにもよく見られ秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理の減少により減少傾向にある。</p> <p>【県内分布】県北部～中部、東部に分布する。</p> <p>【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>フジバカマ <i>Eupatorium japonicum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】川の堤防などに生える多年草。茎は高さ1～1.5m。葉は対生で普通3深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、長さ8～13cm。花期は8～9月。花は枝の先に散房状に多数つく。本州(関東以西)～九州に分布する。古く中国から伝来された帰化植物と考えられている。オミナエシ、キキョウと共に秋の七草として知られるが、河川の変化によりオミナエシ、キキョウに比べると最も減少傾向が高い。</p> <p>【県内分布】県西部、中部に分布する。</p> <p>【市内分布】市北部、中部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>スイラン <i>Hololeion krameri</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】水辺や湿地に生える多年草。茎は高さ50～100cmになり、よく分枝する。根出葉は茎葉と同様線状披針形で互生し、長さ15～50cm、幅1.2～3cm。縁にはまばらに鋸歯があり、両面とも無毛で厚い。花期は9月～10月。3.5～10cmの花茎に径3～3.5cmの黄色い花をつける。本州(中部以西)～九州に分布する。</p> <p>【県内分布】県中部、東部に分布する。</p> <p>【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>アギナシ <i>Sagittaria aginashi</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) オモダカ科 (Alismataceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】ため池や水田、湿地などに生育する抽水性～湿生の多年草。茎は短く葉は根生し、走出枝はない。葉は長さ20～50cmの柄があり、矢尻形、やや細い頂裂片と左右に下向する側裂片からなる。側裂片の先端は尖らず円みを帯びる。花期は7～10月。花茎は長さ45～100cmで白色の花をつける。夏季以降に葉柄基部の内側に径3～6mmの小球茎(むかご)を付ける。北海道～九州に分布する。</p> <p>【県内分布】県中部、東部などに分布する。</p> <p>【市内分布】市北東部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>スプタ <i>Blyxa echinosperma</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) トチカガミ科 (Hydrocharitaceae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】水田や溝などに生える一年生の沈水植物。葉は根生し株状となる。葉は線形で紫褐色を帯び、長さ10～30cm、幅5～8mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花期は8～10月。花柄は葉腋から水面上に伸び、苞鞘は円筒形、細い白色3枚の花弁を持つ花をつける。本州～琉球に分布する。</p> <p>【県内分布】県中部、東部などに分布する。</p> <p>【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>

表 4-4 重要な植物の概要等(8/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ヤナギスプタ <i>Blyxa japonica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) トチカミ科 (Hydrocharitaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】水田や溝などに生える一年生の沈水植物。茎は水中に伸長・分枝し植物体の長さは30cmにも達する。葉は互生し線形で紫褐色を帯び、長さ3~5cm、幅1.5~2mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花期は7~10月。花柄は葉腋から水面上に伸び、苞鞘は円筒形、細い白色3枚の花弁を持つ花をつける。本州~琉球に分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>コウガイモ <i>Vallisneria denseserrulata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) トチカミ科 (Hydrocharitaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】平地の湖沼、河川、水路に生育する多年生の中水植物。葉は根生し線形(リボン状)で長さ10~60cm、幅5~11cm、縁には鋸歯がある。葉腋からは走出枝を伸ばし、先端に新苗を付ける。花期は8~10月。雌雄異株で雌株は直径1mmほどの花柄を水面近くまで長く伸ばし雌花を水面に浮かべる。雄花は葉の基部から数cm伸びた花茎の先の苞鞘に多く詰まっている。本州・九州に分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>カキツバタ <i>Iris laevigata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) アヤメ科 (Iridaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】水湿地に生える多年草。根茎は分枝して多くの繊維に覆われる。葉は長さ30~70cm、幅20~30mm。花期は5~6月。高さ40~70cmの花茎が立ち上がり、頂部に2~3花がつく。径12cm内外の青紫色の花をつける。北海道~九州に分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市北東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>ヒメコヌカグサ <i>Agrostis valvata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】山のやや湿った場所にまれに生える多年草。根茎は発達せず稈は束生、高さ40~70cm。葉は扁平で長さ7~15cm、幅3~5mm。花期は5~6月。小穂は長さ2.5~3mm、淡緑色でしばしば赤紫色を帯びる。苞穎は同形、小花は淡白色で苞穎より少し長く、芒は無い。本州(関東以西)~九州に分布する。同じコヌカグサ属の中では、小花が苞穎よりやや長いことが特徴である。 【県内分布】県中部、東部に分布する。 【市内分布】市中部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>ナガエミクリ <i>Sparganium japonicum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ミクリ科 (Sparganiaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】ため池、河川、水路などに生育する多年生の抽水植物。特に止水域よりも流水域によく見られる。地中を横に這う根茎がある。葉は断面が三角状で背稜が顕著、直立し高さ70~130cm。花期は6~9月。雌性頭花は3~7個で少なくとも下側の1~3個は有柄。雄性頭花は4~9個で雌性頭花から離れてつく。集合果が栗の「いが」に似ていることからミクリ(実栗)の名がある。本州~九州に分布する。 【県内分布】県西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市北西部、西部、中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>

表 4-4 重要な植物の概要等(9/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>クロヒナスゲ <i>Carex gifuensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) カヤツグサ科 (Cyperaceae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】比較的明るい林内に生える多年草。大株となるが匍枝を欠く。稈は20～30cm。葉は幅1.5～2.5mm、開花時は稈より短い、その後著しく伸長する。花期は4～6月。小穂は2～3個。頂小穂は雄性で、狭披針形。長さ1～1.5cm、幅1～1.5mm、帯赤色。側小穂は雌性。無柄で楕円形、長さ5～10mm、幅3mm。栃木県、岐阜県、三重県、愛媛県に隔離分布する。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>セッコク <i>Dendrobium moniliforme</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ラン科 (Orchidaceae)</p> <p>岐阜県条例: 指定希少野生生物 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】常緑樹林内の樹上や岩上に多数の根を出し着生する多年草。茎は束生し、高さ5～25cmで多数の節がある。葉は披針形で長さ4～7cm、2～3年生、互生し光沢がある。花期は5～6月。葉の落ちた節から細い花茎を出し、白色または淡紅色の花を1～2個つける。甘い芳香がある。本州～琉球に分布する。 【県内分布】県北部、西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚英樹</p>
<p>カキラン <i>Epipactis thunbergii</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ラン科 (Orchidaceae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】日当たりの良い湿地に生える多年草。根茎は横に這い、節から根を出す。茎は高さ30～70cm。葉は狭卵形で互生し、長さ7～12cm、幅2～4cm。著しい縦脈があり、基部は茎を抱く。花期は6～8月。黄褐色の花を10個程度つける。北海道～九州に分布する。花の色が柿の実の色に似ていることからこの名がある。 【県内分布】県北部、西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p>サギソウ <i>Pecteilis radiata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ラン科 (Orchidaceae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】日当たりの良い湿地に生育する多年草。前年の走出枝の先端に生じた円形の球茎から地上茎を出す。茎は高さ15～40cm。花期は7～8月。茎の上部に1～数個の白色の花をつける。その姿は白鷺が舞うようで美しい。本州～九州に分布。低地の貧栄養の湿地に生育するが、各種開発や山野草ブームなどにより、急激に減少している。 【県内分布】県北部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>

4-1-4 外来生物法などに係る植物種

岐阜市内に生育記録のある外来生物法¹²に係る植物種としては、表 4-5 のとおり、特定外来生物としてアレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの4種が該当する。また、外来生物法の規制対象外ではあるが、環境省で指定している要注意外来生物としてエゾノギシギシ、フサジュンサイ、オランダガラシなど46種が挙げられる。これら合計

¹² 外来生物法: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(法律第78号, 平成16年6月)

50 種のうち、45 種が 2009～2013 年度に実施した現地調査においても生育を確認している。

特定外来生物のうち、最も広範囲に分布しているのはオオキンケイギクである。橙色の目立つ花をつけることから当初は園芸植物として花壇や庭などに植栽され、一時期は道路などの法面緑化植物の一つとして利用されてきた。これらから逸出した個体が周辺部に拡大し、特に花期にはいたるところで目にするようになっている。そのほかの 3 種は現状、分布自体は限られているが、それぞれ繁殖力が強く、オオカワヂシャのように在来種と交雑する種も含まれ、今後注意が必要である。

一方、要注意外来生物については、その多くが身近にみられ、あたかも在来種のようにびこっている種も多く含まれている。アメリカセンダングサ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、シナダレスズメガヤなどはその代表例で、今となつては駆除することが不可能な状況にある。

2009～2014 年度で実施した現地調査で確認された外来生物法などに係る植物(45 種)の概要・分布状況などは表 4-6 のとおりである。

表 4-5 生育記録のある外来生物法などに係る植物

科名	和名	外来生物法	科名	和名	外来生物法
ウリ科	アレチウリ	特定外来生物	キク科	ヒメムカシヨモギ*	要注意外来生物
アリハクダ科	オオフサモ	特定外来生物		オオアレチナギク	要注意外来生物
ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ	特定外来生物		ヒメジョオン	要注意外来生物
キク科	オオキンケイギク	特定外来生物		ハルジョオン	要注意外来生物
タデ科	エゾノギシギシ	要注意外来生物		クイモ	要注意外来生物
スイレン科	フサジュンサイ	要注意外来生物		ブタナ	要注意外来生物
アブラナ科	オランダガラシ	要注意外来生物		セイタカアワダチソウ	要注意外来生物
マメ科	イタチハキ*	要注意外来生物		オオアワダチソウ	要注意外来生物
	ハリエンジュ	要注意外来生物		アカミタンポポ*	要注意外来生物
カタハミ科	ムラサキカタハミ	要注意外来生物		セイヨウタンポポ*	要注意外来生物
アオイ科	イチビ	要注意外来生物		オオオナモミ	要注意外来生物
アカハナ科	マツヨイグサ	要注意外来生物	オモダカ科	ナガハオモダカ	要注意外来生物
	コマツヨイグサ	要注意外来生物	トチカガミ科	オオカナダモ	要注意外来生物
モクセイ科	トウネズミモチ	要注意外来生物		コカナダモ	要注意外来生物
アカネ科	オオフトハムグラ	要注意外来生物	ミスアオイ科	ホテイアオイ	要注意外来生物
ヒルガオ科	セイヨウヒルガオ	要注意外来生物	アヤメ科	キショウブ*	要注意外来生物
	アメリカネシカスラ	要注意外来生物	ツクシ科	ノハカタカラクサ	要注意外来生物
ナス科	チョウセンアサガオ	要注意外来生物	イネ科	メケンカルカヤ	要注意外来生物
	ワルナスビ*	要注意外来生物		カモガヤ	要注意外来生物
オオハコ科	ヘラオオハコ	要注意外来生物		シナダレスズメガヤ	要注意外来生物
キク科	ブタクサ	要注意外来生物		オニウシノケグサ	要注意外来生物
	オオブタクサ	要注意外来生物		ネスミムキ*	要注意外来生物
	アメリカセンダングサ	要注意外来生物		ホソムキ*	要注意外来生物
	コセンダングサ	要注意外来生物		キシュウスズメノヒエ	要注意外来生物
	アワユキセンダングサ	要注意外来生物	カヤツリグサ科	メケンガヤツリ	要注意外来生物

注) 表中の各カテゴリーの内容については、以下を参照のこと。

外来生物法 特定外来生物：外来生物(海外起源の外来種)であつて、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるも

要注意外来生物：特定外来生物被害防止法による規制の対象外であるが、すでに日本に持ち込まれ、生態系に悪い影響を及ぼす恐れのある生物。環境省が指定。

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (1/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>アレチウリ <i>Sicyos angulatus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) 瓜科 (Cucurbitaceae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p>【種概要】河川や耕作地の土手に生えるつる性の一年草。茎は円くて稜があり、多細胞の縮毛が多い。盛んに分枝しながら長さ数mに達し、巻きひげにより絡まって広がる。葉は互生、ほぼ円形で径10~20cm、3~7浅裂し、鋸歯縁。花期は8~10月。葉腋から雄花序と雌花序をそれぞれ伸ばし、雄花序には径約1cmの白色の花をつけ、雌花序には淡緑色の花をつける。果実には長い刺毛を密生する。国内では北海道~九州に分布する。北アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市中部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>オオフサモ <i>Myriophyllum aquaticum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アリアウグサ科 (Haloragaceae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p>【種概要】湖沼、ため池、河川、水路に群生する多年生の抽水植物。雌雄異株で、日本には雌株のみ帰化。茎は径5mm前後と太く、水中を横走しながら分枝する。葉は5~6輪生。沈水葉は繊細で、長さ6cmに達する。気中葉は1.5~4.5cm、羽状に細裂し、粉を吹いたような緑白色で柔らかい。花期は6月。気中葉の腋につく。国内では本州~琉球の主に暖地に分布する。南アメリカ原産。別名: ヌマフサモ、スマフサモ。</p> <p>【県内分布】県中部、西部、南部に分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>オオカワヂシャ <i>Veronica anagallis-aquatica</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) ゴマノハクサ科 (Scrophulariaceae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p>【種概要】河川、水路などの水際に生える越年草。茎は直立し、30~100cm。葉は対生し長楕円形、長さ3~7cm、幅1~2cm、基部は無柄で茎を抱く。鋸歯は微小で全縁に近い。花期は4~9月。上部の葉の腋に総状花序を伸ばし径約5mmの淡紫色の花を多数つける。国内では本州(関東以西)に分布している。ヨーロッパ~アジア北部原産。</p> <p>【県内分布】県中部に分布する。 【市内分布】市西部、中部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>オオキンケイギク <i>Coreopsis lanceolata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p>【種概要】路傍や土手に生える多年草。茎は高さ30~70cm。葉は対生、時に一部互生。根生葉は長い柄があり、花時にも残り、3~5小葉からなる。茎葉は狭倒披針形。花期は5~7月。径5~7cmの黄色い花をつける。国内では庭や花壇のほか花の咲く法面緑化などに使用され、いたるところに逸出し、群落状に広がっている。北アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 坂井英里</p>
<p>エゾノギシギシ <i>Rumex obtusifolius</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) タデ科 (Polygonaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】畑地や路傍に生える多年草。茎は直立し、高さ50~130cm、中部以上で分枝する。葉は長卵形~長楕円状長卵形、長さ12~25cm、幅5~12mm、縁は著しく波状となる。花期は5~7月。茎の上部や枝の節にやや密な円錐状の花序をつける。国内では北海道~琉球に分布する。ヨーロッパ原産。別名: ヒロハギシギシ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、西部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (2/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>フサジュンサイ <i>Cabomba caroliniana</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) スイレン科 (Nymphaeaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湖沼、ため池、河川、水路に生育する多年生の沈水植物。地下茎は発達せず、水中茎が根元で分枝して株状となる。葉は対生で基部で5裂片に分かれ、さらにそれぞれが2～3回二又状に分裂し、糸状の裂片が掌状に広がる。基部から先端までは長さ1～3.5cm。花期は7～10月。葉腋から花柄が伸び径1～1.5cmの白色の花をつける。国内では本州～琉球に分布する。北アメリカ原産。別名: ハゴロモモ、カボンバ。</p> <p>【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市西部、中部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>
<p>オランダガラシ <i>Nasturtium officinale</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アブラナ科 (Cruciferae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】水辺から水中に群生する多年草。茎は高さ20～60cm、中空、下方の節から根が出る。葉は羽状複葉で、側小葉は1～5対、広卵形～円形、全縁か波状縁。沈水している葉はより大きくなる。花期は6～9月。茎の先端に総状花序をつけ、径4～5mmの白色の花を多数つける。国内では北海道～九州に分布する。クレソンとして食す。ヨーロッパ原産。別名: ミズガラシ、クレソン、ウォーターレタス。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、西部、中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>イタチハギ <i>Amorpha fruticosa</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) マメ科 (Leguminosae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】林縁部、道端などに生える落葉性の低木。樹高は1～3m。葉は奇数羽状複葉、側小葉は6～15対。小葉は普通卵形～長楕円形。先端は中肋が突出し微突起となる。花期は4～7月。枝先に3～5個の総状花序を出し、濃紫色の花を多数密集してつける。豆果は扁平な狭楕円形、長さ5～8mm。国内では、北海道～琉球に分布する。北アメリカ原産。別名: クロバナエンジュ、ロシアハギ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、西部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>ハリエンジュ <i>Robinia pseudoacacia</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) マメ科 (Leguminosae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】荒地、土手などに生える落葉性の高木。樹高は25mに達する。葉は奇数羽状複葉で、5～10対の側小葉があり、托葉は刺となっている。小葉は狭卵形～楕円形、長さ2.5～5cm、両面に伏した短毛がある。花期は4～6月。枝に総状花序を垂らし、芳香のある白色の花を多数つける。豆果は広線形、長さ5～10cm、幅1.5～1.8mm。全国で庭木、街路樹、砂防林などとして植えられ、野生化している。北アメリカ原産。別名: ニセアカシア、ハナエンジュ、イヌアカシア。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>
<p>ムラサキカタバミ <i>Oxalis debilis</i> subsp. <i>corymbosa</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) カタバミ科 (Oxalidaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】空地、畑、道端に生える多年草。鱗茎は褐色の鱗片に包まれ、卵形で径20～25mm、小鱗茎を多数つける。鱗茎から長い柄のある3小葉の葉をつける。小葉は心臓形で長さ幅とも1.5～4cm、両面有毛で、裏面辺縁に淡黄赤色の小斑点がある。花期は2～11月。葉柄より少し長い花茎の先端に1～15個の淡紅紫色の花をつける。国内では東北地方の一部を除いて全国に分布する。南アメリカ原産。別名: キキョウカタバミ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (3/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>イチビ <i>Abutilon theophrasti</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アオイ科 (Malvaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】畑や荒地、河原などに生える一年草。茎は高さ50～100cm、上部で分枝し、束状の軟毛や腺毛がある。葉は心臟形で顕著な掌状脈が5～9個ある。先は急に狭まって鋭く尖り、縁には低い波状鋸歯がある。花期は8～10月。茎の上方の葉腋に橙黄色の花をつける。国内では北海道～琉球に分布する。インド原産。</p> <p>【県内分布】県中部、南部などに分布する。 【市内分布】市南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>メマツヨイグサ <i>Oenothera biennis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アガネ科 (Onagraceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】荒地など攪乱され開けた場所に生育する二年草。茎は直立し、高さ0.3～2m、剛毛と基部が膨らむ長毛がある。また地上部にはロゼットを形成する。葉は倒披針形で長さ5～22cm、幅1～6cm、縁は歯状。花期は6～10月。葉腋についた花序に黄色の花をつける。しばむと橙色になる。国内では北海道～九州に分布する。北アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>コマツヨイグサ <i>Oenothera laciniata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 離弁花亜綱 (CHOLIPETALAE) アガネ科 (Onagraceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】攪乱された場所や砂地に生える一年草～多年草。茎は高さ5～50cmで直立または平伏し、ロゼットを形成する。葉は倒披針形～長円形～狭楕円形、長さ2～10cm、幅0.4～3.5cm、縁は浅裂する。花期は4～11月。茎上部の葉腋についた花序に黄色～淡黄色の花をつける。しばむと橙色になる。花序には剛毛のほか長毛と腺毛がある。国内では本州(関東以西)～九州に分布する。北アメリカ原産。別名: キレハマツヨイグサ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、西部、中部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>トウネズミモチ <i>Ligustrum lucidum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) モクセイ科 (Oleaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】生垣や庭木として植えられる常緑小高木。枝はよく分枝し、粒上の皮目がある。葉は対生で厚く卵状楕円形で大きく、先端は細長く尖る。花期は6月。長さ5～12cmほどのまばらな円錐花序で白色の花をつける。在来のネズミモチに比べ、葉・花序共に大きい。栽培個体からの逸出が見られる。中国原産。</p> <p>【県内分布】県西部、中部に分布する。 【市内分布】市中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>オオフトタバムグラ <i>Diodia teres</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) アガネ科 (Rubiaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】海岸や河原の砂地に生える一年草。茎は地上を匍匐あるいは斜上し、長さ10～50cm、細毛が密生する。葉は対生し、広線形～線状披針形、長さ1～3cm、幅2～4mm。花期は7～8月。葉腋に白色あるいは淡桃色の花をつける。本州(宮城県以西)～九州に分布する。北アメリカ原産。別名: タチフトタバムグラ、スナムグラ。</p> <p>【県内分布】県中部に分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (4/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>セイヨウヒルガオ <i>Convolvulus arvensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ヒルガオ科 (Convolvulaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】路傍や荒地などに生える多年生のつる植物。つるの長さは1~2m。葉は互生、長さ1~3cm、幅0.4~2cm、ほこ形で基部は左右に張り出す。花期は7~8月。葉腋から長さ1~6cmの花序を伸ばし1~2個の白色~桃色の花をつける。国内では北海道~琉球に分布する。ヨーロッパ原産。別名: ヒメヒルガオ。</p> <p>【県内分布】県中部、南部などに分布する。 【市内分布】市南部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>
<p>アメリカネナシカズラ <i>Cuscuta campestris</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ヒルガオ科 (Convolvulaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】つる性で一年生の寄生植物。全体黄褐色で宿主を選ばず様々な草に寄生する。茎は針金状で葉は無く、吸盤を出して宿主の茎にからみつく。遠目には、黄色い糸くずのようなものが広がっているように見える。花期は8~9月。茎にある小さな鱗片の腋に、短い集散花序を出し白色の小さな花を多数頭状につける。国内では北海道~琉球に分布する。北アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>
<p>ワルナスビ <i>Solanum carolinense</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) ナス科 (Solanaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】荒地や路傍に生える多年草。茎は分枝して斜上し、高さ30~70cm、小さな星状毛があるほか、まばらに黄色の鋭い刺がある。葉は互生し、卵形~卵状長楕円形、長さ6~12cm、2~4個の大型の鋸歯があり、両面に星状毛がある。花期は6~9月。枝先に6~11cmの花序を伸ばし、5~15個の花を散房状につける。液果は橙黄色で径約1cmの球形。国内では本州(関東南部以西)~琉球に分布する。北アメリカ原産。別名: オニナスビ、ノハラナスビ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>
<p>ヘラオオバコ <i>Plantago lanceolata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) オオバコ科 (Plantaginaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】川原や草地など日当りの良い場所に生える多年草~二年草。葉は斜上し狭楕円形~倒披針形、全縁で長さ約30cm。花期は5~8月。70cmに達する花茎の先に長さ8cmほどの円柱形の穂状花序をつける。花は花序の下から上に向かって順次咲く。国内では北海道~琉球に分布する。ヨーロッパ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市西部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>ブタクサ <i>Ambrosia artemisiifolia</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キ科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】空地や裸地、河川敷などに生える一年草。茎は直立し、高さ30~120cm。茎の下部の葉は対生して長い柄があるが、上部のものは互生しほとんど無柄。葉は三角状卵形で、長さ6~12cm、中肋近くまで羽状に裂け、裂片はさらに深裂する。花期は7~10月。雌性花序は枝の先に総状につき、雌性花序はその下の葉腋に2~3個つく。国内では北海道~琉球に分布する。北アメリカ原産。花粉症の原因植物となっている。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市西部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (5/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>オオブタクサ <i>Ambrosia trifida</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】空地や河川敷などに群生する多年草。茎は太く上部で枝分かれし、高さ1~4m。葉は対生し、長さ20~35cm、桑の葉に似ており、掌状に3~5裂し、長い柄がある。花期は7~9月。雄花序は枝の頂部に総状につき、雌花序は下方の葉腋に塊状につく。国内では北海道~九州に分布する。北アメリカ原産。別名:クワモドキ。</p> <p>【県内分布】県中部、西部、東部、南部に分布する。</p> <p>【市内分布】市北東部、中部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影:佐藤克則</p>
<p>アメリカセンダングサ <i>Bidens frondosa</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湿った草地、休耕田などに生える一年草。茎は直立し、高さ1~1.5m、紫褐色で多く分枝する。葉は対生し、羽状複葉。小葉は3または5、明瞭な柄があり、長さ8~15cm、披針形で縁に粗い鋸歯がある。花期は9~10月。頭花は径1~2cm、ごく短い黄色の舌状花がある。瘦果には頂端にの逆刺のある刺が2個ある。国内では北海道~琉球に分布する。北アメリカ原産。別名:セイタカウコギ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。</p> <p>【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影:中尾茂樹</p>
<p>コセンダングサ <i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】河原、空地などに生える一年草。茎は直立し高さ50~120cm。葉は下部で互生、上部で対生し、卵状三角形、長さ7~8cm、幅5~6cm、2~3回羽状に分裂し、小葉は卵状披針形。花期は9~11月。黄色の頭花をつける。通常筒状花のみだが時に舌状花も見られる。果体には頂端に3~4本の逆刺のついた刺があり、衣服や動物の毛について他の場所に運ばれる。国内では本州~九州に分布する。熱帯アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。</p> <p>【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影:加藤範夫</p>
<p>ヒメムカシヨモギ <i>Conyza canadensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】道端、空地などに生える一年草~越年草。茎は高さ80~180cm、開出粗毛が密にある。根出葉はへら形。茎葉は線形~広線形、長さ7~10cm、幅0.5~1.5cm、まばらに鋸歯があるか全縁。花期は8~10月。頭花は径約3mm、筒状花は淡黄色、舌状花は白色、舌状部は約1mm。国内では北海道~琉球に分布する。北アメリカ原産。別名:カンゲンソウ、ゴイソウ、サイゴウグサ、テツドウグサ、メイジソウ、ヨガワリグサ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。</p> <p>【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影:加藤範夫</p>
<p>オオアレチノギク <i>Conyza sumatrensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】道端、空地などに生える一年草~越年草。茎は高さ80~180cm、全体に開出軟毛が密にある。葉は両面に密に短毛があり、狭楕円形~線状倒披針形、長さ8~15cm、幅1~2cm、まばらに鋸歯がある。花期は8~10月。頭花は径4~5mm、筒状花は淡黄色、舌状花は極めて短く汚白色。国内では北海道~琉球に分布する。南アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。</p> <p>【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影:加藤範夫</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (6/9)


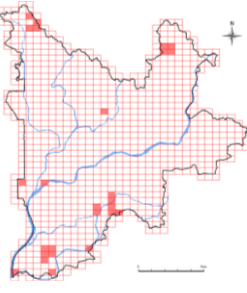
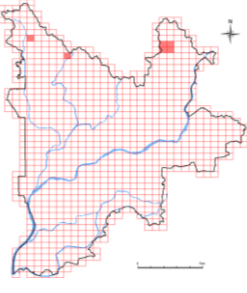
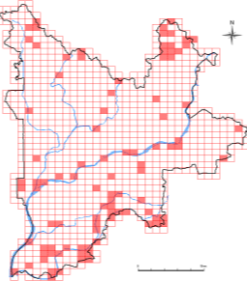
種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ヒメジョオン <i>Erigeron annuus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】いたるところに生える一年草～越年草。茎は高さ30～120cm、まばらな開出粗毛があり中実。根出葉はロゼット状で、花時に枯れる。茎葉は卵形～狭長楕円形、長さ5～15cm、幅1.5～3cm、粗い鋸歯がある。上部の葉は無柄、下部のものは有柄。花期は6～10月。頭花は径約2cm、筒状花は黄色、舌状花は白色～淡紅色。国内では北海道～九州に分布する。北アメリカ原産。別名: アメリカグサ、イヌヨメナ、サイゴウグサ、センソウグサ、ヤナギバヒメギク。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>ハルジオン <i>Erigeron philadelphicus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】道端、空地などに生える一年草～越年草。茎は高さ30～80cm、全体に軟毛があり中空。根出葉はロゼット状で花時にも枯れない。茎葉は楕円状披針形、長さ5～15cm、幅1.5～3cm、無柄。花期は4～8月。頭花は径2～2.5cm、筒状花は黄色、舌状花は白色～淡紅色。国内では北海道～九州に分布する。北アメリカ原産。別名: ハルシオン、ペニバナヒメジョオン。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、西部、中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>
<p>キクイモ <i>Helianthus tuberosus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】空地や土手などに群生する多年草。茎は高さ1～3m、上部で分枝し、開出または下向きの剛毛がありざらつく。葉は卵状披針形、中脈を含め3脈が目立つ。裏面は毛が密にあり、無柄の腺点が多い。花期は8～11月。外観はヒマワリに似て、舌状花は黄色。根の先に塊茎ができ、カライモと呼ばれ味噌漬けに食する。国内では北海道～琉球に分布する。北アメリカ中部原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>
<p>ブタナ <i>Hypochaeris radicata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】道端、荒地、畑地などに生える越年草。葉は根生しロゼット状。茎は高さ25～80cm。葉は倒披針形、長さ6～11cm、幅1.5～4.5cm、羽状に浅裂～中裂、両面および縁に剛毛が密生する。花期は6～10月。頭花は黄色で径3～4cm。タンポポ類に似るが、本種は花茎から1～3本の枝を出すことで区別できる。国内では全国に広く分布する。ヨーロッパ原産。別名: タンポポモドキ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市西部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>セイタカアワダチソウ <i>Solidago altissima</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】道端、空地、河川敷などに生える多年草。茎は高さ50～250cm。葉は線状長楕円形で辺縁には低い鈍鋸歯がある。長さ5～15cm、幅1～2.5cm、両面に短毛があり無柄。花期は10～11月。花序は大きな円錐状で、多数の黄色の花をつける。国内では北海道～琉球に分布する。地下部から種子発芽を抑制するアロレバシール物質を分泌するため、時に大純群落を形成する。北アメリカ原産。別名: セイタカアキノキリンソウ、ヘイザンソウ。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (7/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>セイヨウタンポポ <i>Taraxacum officinale</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】市街地から里山の道端などの草地に生える多年草。花茎の高さは果時に10～45cm。葉はロゼット状につき、長さ3～50cm、幅0.5～8cm、羽状浅裂～深裂。花期は3～5月が最盛期だがほぼ年中みられる。頭花は黄色で径3.5～4.5cm。総苞外片はつぼみ時以外反転する。国内では北海道～琉球に広く分布する。ヨーロッパ原産。 【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、中部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>オオオナモミ <i>Taraxacum officinale</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 双子葉植物綱 (DICOTYLEDONEAE) 合弁花亜綱 (SYMPETALAE) キク科 (Compositae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】河川敷や水際などやや湿潤な場所に生育する一年草。茎は短毛があつてざらつき高さ50～200cmにもなる。葉は広卵形で、長さ5～15cm、幅4.5～15cm、3～5に中裂する。花期は9～12月。雄花は黄白色、雌花は淡緑色。いが(成熟した雌花の総苞)は長さ15～25mm、幅10～18mm、頂端に長さ約5mmの2個の角があり、表面には先の曲がつた3～6mmの刺が密生する。国内では北海道～九州に分布する。北アメリカ原産。 【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>ナガバオモダカ <i>Sagittaria graminea</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) オモダカ科 (Alismataceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】池沼や河川に生える多年草の抽水植物。草丈は通常20～60cmだが、水深によってはそれ以上となる。葉は根生し、抽水葉では披針形、長さ7～25cm、幅1.5～3cm。花期は4～9月。15～70cmの花茎の先に3輪性の総状花序をつける。径1.5cmの白色の花をつける。雌雄異株で、日本には雌株のみ帰化しており、走出枝により子株を形成する。国内での分布ははっきりしていないが、東京都や京都府など複数の都府県に分布していると考えられる。北アメリカ原産。 【県内分布】県中部などに分布する。 【市内分布】市中部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 井戸健登</p>
<p>オオカナダモ <i>Egeria densa</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) トチカガミ科 (Hydrocharitaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湖沼、ため池、河川、水路などに生育する常緑多年生の沈水植物。全長は時に1mを超え、上部は盛んに分枝する。葉は3～5輪生となり、長さ1.5～4cm、幅2～4.5mm、辺縁には細かい鋸歯がある。花期は5～10月。日本には雄株だけが帰化している。花(雄花)は白色で、水面上に出て開花する。国内では本州(関東以南)～九州に分布するが、東北地方の一部の水域にも侵入している。アルゼンチン原産。 【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>コカナダモ <i>Elodea nuttallii</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) トチカガミ科 (Hydrocharitaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湖沼、ため池、河川、水路などに生育する常緑多年生の沈水植物。全長は時に1mを超え、上部は盛んに分枝する。葉は3輪生となり、長さ5～15mm、幅1～2.5mm、辺縁には細かい鋸歯がある。ねじれたり反り返ったりすることも多い。花期は5～9月。日本には雄株だけが帰化している。花(雄花)は、白色でつぼみの時に花茎を伸ばし、水面で開花する。国内では本州(東北地方以南)～九州に分布するが、北海道での確認記録もある。アメリカ北東部原産。 【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (8/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ホテイアオイ <i>Eichhornia crassipes</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ミズアオイ科 (Pontederiaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湖沼、ため池のほか河川や水路の流れの緩やかな場所に浮遊・生育する多年草。走出枝を伸ばして子株をつくり広がる。大きさは環境条件によって変異が大きく、10～80cm、1mを超えるものもある。葉は卵心形～円心形、長さ5～20cm、幅5～18cm。葉柄の中ほどが膨れて浮囊となる。花期は6～11月。葉間から伸びる花茎の総状花序に淡紫色の花を多数つける。国内では北海道～琉球に分布するが、北海道では冬季は水温が低いため消滅する。熱帯アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市西部、東部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>キシノウブ <i>Iris pseudacorus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) アヤメ科 (Iridaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】水辺に群生する多年草。地下には横に這う太い根茎があり、分枝して繁殖する。葉は長さ60～100cm、幅2～3cm。花期は5～6月。花茎は直立し葉よりも高くなり、1～2個の黄色の花をつける。国内では北海道～九州に分布する。ヨーロッパ～アジア大陸原産。</p> <p>【県内分布】県中部、西部、東部、南部に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 近藤慎一</p>
<p>ノハカタカラクサ <i>Tradescantia flumiensis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ツクサ科 (Commelinaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】路傍、林床などやや湿潤な日陰に生える多年草。茎は伸長し、地面に接する場所から不定根を出し広がる。葉は互生し卵状楕円形～楕円形で長さ3～5cm、幅約2cm。花期は5～8月。茎の先にある葉の腋に数個白色の花をつける。国内でも栽培品と共に広く野生化している。メキシコ原産。</p> <p>【県内分布】県北部、西部、中部、東部に分布する。 【市内分布】市西部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>メリケンカルカヤ <i>Andropogon virginicus</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】路傍や草地に生える多年草。稈は多数が束になって直立し、高さ50～80cm。結実する頃には葉とともに赤褐色となる。葉は長さ10～30cm、幅2～5mm。中央脈に沿って2つ折りとなり多くは稈に沿って直立する。花期は10～11月。苞葉に包まれた数本の総には白い長毛があり、これに無柄の両性小穂と無性小穂が対となってつく。国内では本州～九州に分布する。北アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>カモガヤ <i>Dactylis glomerata</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】路傍や草地に生える多年草。稈はほぼ直立し高さ40～120cm。葉は長さ10～40cm、幅3～14mm。花期は7～8月。円錐花序は長さ10～25cm、各節に枝を1本づつ出し、上方に多くの小穂が塊状につく。国内ではオーチャードグラスの名で、牧草として利用され、北海道～琉球に分布する。ヨーロッパ～西アジア原産。花粉症の原因植物となっている。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、南部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>

表 4-6 外来生物法などに係る植物の概要等 (9/9)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>シナダレスズメガヤ <i>Eragrostis curvula</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】路傍や河川敷などに大群落を形成する多年草。大株になり、高さ60～120cm。葉は長さ40～60cm、幅1.5～2mmで内側に巻く。花期は8～10月。円錐花序は長さ20～40cm、開出あるいは斜上する2～5本の枝を半輪生状につけ、その上方1/3～1/2に小穂をつける。小穂は鉛色で披針形、長さ6～12mm、7～11小花からなる。国内では北海道～琉球に分布する。南アフリカ原産。別名:ウィーピング・ラブ・グラス。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市内全域に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 佐藤克則</p>
<p>オニウシノケグサ <i>Festuca arundinacea</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】荒地や路傍などに広く生育している多年草。稈は直立し、高さ40～180cm。葉は長さ10～60cm、幅3～10mm。葉鞘の口部は三日形の葉耳となり稈を抱く。葉耳の辺縁には短毛がある。花期は6～8月。長さ10～40cmの円錐花序をつける。小穂は長さ10～18cm、3～十数個の小花がある。トールフェスクとして法面緑化や牧草として利用され、国内では北海道～九州に分布する。ヨーロッパ原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>ネズミムギ <i>Lolium multiflorum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】日当りの良いやや乾燥した場所に生える1～2年草。稈は東生し高さ30～100cm。葉は長さ6～25cm、幅3～10mm、基部の両側には三日月形の葉耳が発達する。花期は5～7月。花序は穂状で、長さ10～30cm。無柄の小穂が中軸の両側に2列に交互に並び、護穎には5～12mmの細い芒がある。国内ではイタリアン・ライグラスとして牧草や法面緑化に利用され、北海道～琉球に広く分布する。ヨーロッパ～アジア大陸原産。</p> <p>【県内分布】県内全域に分布する。 【市内分布】市北東部、西部、中部、東部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 中尾茂樹</p>
<p>キシウスズメノヒエ <i>Paspalum distichum</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) イネ科 (Gramineae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】湿地や水路に群生する多年草。稈の基部は長く匍匐し、節から根を出す。これから分枝した稈は直立し、高さ20～40cm。葉は長さ5～10cm、幅3～8mm。花期は7～10月。花序は2個の総からなり、総の長さ4～9cm、中軸の下側に淡緑色の小穂が2列に並び、開花時には紫黒色の柱頭が目立つ。国内では本州(関東以西)～琉球に、国外では熱帯アジア～北・中部アメリカに分布する。別名:カリマタスズメノヒエ。</p> <p>【県内分布】県西部、中部に分布する。 【市内分布】市南部に生育記録がある。</p>		<p>no photo</p>
<p>メリケンガヤツリ <i>Cyperus eragrostis</i></p> <p>種子植物門 (SPERMATOPHYTA) 被子植物亜門 (ANGIOSPERMAE) 単子葉植物綱 (MONOCOTYLEDONEAE) ガヤツリガサ科 (Cyperaceae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p>【種概要】水田や湿地に生える多年草。大株となり、幹は太く高さ30～100cm、鈍い三稜形で、基部は赤褐色。葉は幅5～10mm、長いものは稈とほぼ同長。花期は6～11月。苞葉は葉状で5～6枚、その上に5～10本の花序枝があり、その先に小穂が球状に集まってつく。国内では本州(関東以西)～九州に分布する。熱帯アメリカ原産。</p> <p>【県内分布】県西部、中部に分布する。 【市内分布】市北西部、北東部、中部、南部に生育記録がある。</p>		 <p>撮影: 加藤範夫</p>

4-2 植生

4-2-1 植生概要

岐阜市域の本来の植生(原植生¹³)は常緑広葉樹林、つまりヤブツバキクラス域自然植生¹⁴である。実際は人間活動により常緑広葉樹林自然植生は岐阜市域の 0.8%にまで減少している。植生の大部分は伐採が繰り返された結果として成立したアカマツ林(アカマツ群落)、コナラ林(コナラ群落)といったヤブツバキクラス域代償植生¹⁵で、岐阜市域の 19.8%を占めている。さらにヒノキやスギの植林地(スギ・ヒノキ・サワラ植林)が岐阜市域の 9%を占めている。これらの森林植生を合計すると岐阜市の森林率は約 30%となる。

岐阜市は御望山、城ヶ峰、眉山、百々ヶ峰と連なる山地を境として北側の地域(以下、北部)と南側の地域(以下、南部)で大きく植生概況が異なる。濃尾平野の北縁部にあたる南部は、金華山周辺を除くと地形的に平坦で、水田雑草群落以外はほぼ市街地となっている。一方北部は山地と平地が混在している。北部は市街地が少なく山地はアカマツ林、コナラ林、植林地が広い面積を占めており、平地には水田雑草群落が広がっている。また、城ヶ峰より西の山地と平地の移行部では、果樹園(ほとんどが柿畑)となっている部分が多い。

金華山にはカナメモチーコジイ群集、アラカシ群落、カゴノキ群落などの常緑広葉樹林が残存している。高さ 25m 程度にまで発達した林冠層で、コジイ(ツブラジイ)やアラカシが優占する林分が一定の面積で都市域に存在するのは極めて希である。金華山の北から北西にかけての斜面中部から上部には、通常はブナクラスの要素であるヒノキ群落も成立していることから、金華山の植生は学術的に極めて重要だといえる。またこれら自然植生に加えて、シイ・カシ二次林、コナラ林、アカマツ林、ヒノキ植林地がモザイク状に分布している。このような植生の多様性が、金華山における生物相の形成に重要な役割を果たしていると考えられる。

アカマツ林、コナラ林では管理が行われず放置されているために徐々に常緑広葉樹林へ遷移することが予想される。しかし、ツブラジイ、アラカシの母樹は金華山や社寺林などを除くと単木的あるいは数本程度の群状に残存するのみで、種子の供給が制限される。したがって、アカマツ林やコナラ林における遷移の進行は極めて遅いと考えられる。近年は松くい虫によるアカマツの枯損、カシノナガキクイムシによるコナラやアベマキの枯損が発生しており、アカマツ林・コナラ林では部分的に植生が偏向する可能性もある。特に枯損が発生した部分が低木群落化したりクズ群落化したりすると、森林としての機能が低下すると予想される。

スギ・ヒノキ植林地では間伐が行われないために下層植生が貧弱な林分が多い。特にヒノキ植林地では極度の光量不足で下層植生が著しく未発達な林分も見られ、こうした場所では保水機能の低下や土砂流出などの危険性が高まっている。

岐阜市域の森林は都市住民の生活空間と近接しているため、アカマツ林、コナラ林、植林地における森林としての機能低下は住民の生活環境保全という点で重要な問題である。

竹林は面積的には 0.89%と少ないが、小面積の竹林が各所に点在している。これらの竹林から隣接する管理放棄されたアカマツ林、コナラ林、植林地にモウソウチクやマダケが侵入することで本来の植生が失われ偏向する恐れがある。

岐阜市域全体に分布する水田は、今後の農業政策の方向によってはさらに耕作放棄され、水田雑草群落が減少することも予想される。多くの湿地が水田化されて以降、伝統的管理の継続が水田を湿地生生物の生活場所として機能させてきた。しかし耕作放棄地となれば、水田雑草群落だけでなく貴重な湿地生生物の減少も引き起こすと考えられる。特に岐阜市北側の山間部

¹³ 原植生：人間が植生に影響を加える直前までの自然植生。原始植生。

¹⁴ 自然植生：原植生と同義語。

¹⁵ 代償植生：人間の影響によって、その土地本来の自然植生が様々な人為植生に置き代わったもの。

にある谷津地形¹⁶の水田ではその可能性が高い。

湿地植生として植生単位に挙げていないが、岐阜市大洞には東海丘陵要素植物であるシデコブシの群落狭い面積ながら残されている。下層にはやはり東海丘陵要素植物であるヘビノボラズも生育している。また金華山の東側の放棄水田雑草群落の水路には希少種であるヒメコウホネの小集団が残存している。ヒメコウホネ群落はヒルムシロクラスに区分される水生植物群落である。これらシデコブシ群落やヒメコウホネ群落は完全に孤立した、個体数の少ない集団であるために極めて絶滅確率が高く、早急に保全対策を講じる必要がある。湿地植生にとって過湿な環境が必要であるが、過湿な環境は周辺からの水の流入により維持され、その水の流入量は周辺環境、特に森林の組成や構造により規定される。周辺の森林が発達し、立木サイズが大きくなると流入する水量が減る可能性もある。流入する水量を確保するためには、周辺の森林の発達を抑制する管理も必要になる。

金華山周辺の常緑広葉樹林やヒノキ林を除くと、大部分が何らかの人為的影響を受けた後の再生途上にある代償植生である。このような代償植生では、比較的短時間に植生が大きく変化する可能性がある。したがって、今後とも植生の現状およびその変化を追跡調査する必要がある。

岐阜市域の植生については、1996～1997年に実施された植生調査結果と2009～2012年に実施した植生調査結果ならびに現地踏査などを基に整理した。その結果、岐阜市域の植生は、表4-7のとおり37の植生単位等に整理できた。

なお植生などの名称は環境省が実施している自然環境保全基礎調査植生調査の統一凡例を参考にした。

植生単位ごとの概要は、次頁以降のとおりである。

表 4-7 市内で発達している植生単位など

A.ヤブツバキクラス域自然植生	D.植林地、耕作地植生
A-1.ヒノキ群落	D-1.スギ・ヒノキ植林
A-2.カナメモチーコジイ群集	D-2.竹林
A-3.アラカシ群落	D-3.牧草地
A-4.カゴノキ群落	D-4.ゴルフ場、芝地
A-5.ハンノキ群落	D-5.路傍・空地雑草群落
A-6.ムクノキーエノキ群集	D-6.果樹園
A-7.ヤナギ高木群落	D-7.放棄畑雑草群落
A-8.ヤナギ低木群落	D-8.畑雑草群落
B.ヤブツバキクラス域代償植生	D-9.放棄水田雑草群落
B-1.シイ・カシ二次林	D-10.水田雑草群落
B-2.コナラ群落	E.その他
B-3.アカマツ群落	E-1.残存植栽群をもった公園、墓地等
B-4.クズ群落	E-2.緑の多い住宅地
B-5.低木群落	E-3.市街地
B-6.伐採跡地群落	E-4.工場地帯
C.河辺・池沼植生等	E-5.造成地
C-1.ヨシクラス	E-6.自然裸地
C-2.ツルヨシ群集	E-7.開放水域
C-3.オギ群集	
C-4.河川敷砂礫地草本群落	
C-5.ヒルムシロクラス	
C-6.河川敷砂礫地外来草本群落	

¹⁶ 谷津地形：丘陵地が浸食されてできた谷状の地形。谷戸、谷那、谷地などとも呼ばれる。

A. ヤブツバキクラス域自然植生

A-1 ヒノキ群落 (凡例番号: 104)

高木層にヒノキが優占する林分で、金華山を中心に発達している。ヒノキの生育する自然林は、これまでブナクラス域植生であるヒノキ群団やシャクナゲークロベ群団において整理されており、ヤブツバキクラス域自然植生としては整理されていない。金華山に発達するヒノキ林もこれまでブナクラス域の植生として整理されてきた。しかしながら、金華山一帯に見られるヒノキ林の周囲には前述のカナメモチーコジイ群集や後述のシーカシ二次林が発達していること、本林内にもヤブツバキクラス域を特徴づけるコジイ(ツブラジイ)、アラカシ、サカキ、ヤブコウジなどの生育が顕著であることなどから、ヤブツバキクラス域の植生として整理するのが妥当であると考えられる。さらに、金華山一帯に見られるヒノキ林は、過去に植林が行われた記録がほとんど無いこと、周辺の常緑広葉樹林と共に金華山の森林植生として発達し、金華山の景観構成要素の一つとなっていることなどから、ヤブツバキクラス域の自然植生として位置付け、ヒノキ群落として整理した。

高木層は高さ 24m、植被率 75%でヒノキが優占する。亜高木層は 12m、植被率 85%でコジイ(ツブラジイ)、アラカシ、サカキなどが、低木層は高さ 4.5m、植被率 25%でコジイ(ツブラジイ)、アラカシ、サカキなどが、草本層は高さ 50cm、植被率 10%でヌリトラノオ、ベニシダ、ツルアリドオンなどが生育する。金華山山頂の西から北にかけての尾根から山腹に発達している。



【遠景写真】地点:Ve20110923005、撮影:佐藤克則



【林内写真】地点:Ve20110923005、撮影:佐藤克則

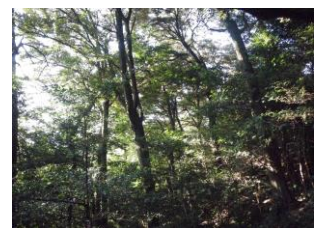
A-2 カナメモチーコジイ群集 (凡例番号: 10)

植生高が 20m 以上の常緑広葉樹林で、コジイ(ツブラジイ)、カナメモチ、サカキ、ヌリトラノオ、リンボクの生育により区分される。

高木層にはコジイ(ツブラジイ)が 90%以上の植被率で優占する。亜高木層は 10m 前後で、コジイ(ツブラジイ)、サカキ、カナメモチなど、低木層にはコジイ(ツブラジイ)、サカキ、アラカシ、ヤブツバキなど、草本層にはコジイ(ツブラジイ)、ベニシダ、ヌリトラノオ、イズセンリョウなどが生育する。金華山一帯の主に斜面中部から下部にかけて広く発達しているほか、周辺の山林にも小面積で発達している。



【遠景写真】地点:Ve20110923010、撮影:佐藤克則



【林内写真】地点:Ve20110923010、撮影:佐藤克則

A-3. アラカシ群落 (凡例番号: 3)

植生高が 15m 以上になる常緑広葉樹林。高木層から草本層までの各層にアラカシが優占する。高木層の植被率は 90%、亜高木層は高さ 8m、植被率 65%でサカキ、カナメモチ、ヤブツバキなどが、低木層は高さ 2.5m、植被率 40%でサカキ、ヤブツバキなどが、草本層は高さ 80cm、植被率 20%でベニシダ、ヌリトラノオ、シシランなどが生育している。金華山山頂南西部の尾根から斜面上部にかけて発達している。



【林内写真】地点:Ve20110923004、撮影:佐藤克則

A-4. カゴノキ群落 (凡例番号: 13)

植生高が 18m に達する常緑広葉樹林。高木層にはカゴノキが優占するほかアラカシ、エノキ、ケヤキ、コジイ(ツブラジイ)が生育する。亜高木層にはヤブツバキが優占し、アラカシ、カゴノキ、カナメモチなどが、低木層にはアオキ、ヤブツバキ、アラカシ、カゴノキなどが生育する。草本層にはイズセンリョウが優占するほかアオキ、オオカナワラビなどが生育する。金華山の北部、長良川に面する斜面下部の崖錐地に発達している。



【林内写真】地点:Ve20120914006、撮影:佐藤克則

A-5. ハンノキ群落 (凡例番号: 17)

植生高が 6~17m の落葉広葉樹林。各層にハンノキが生育するほか、イボタノキ、ノリウツギ、サワアザミ、ショウジョウバカマなどの生育も見られる。立地の乾燥化に伴い、コナラ、ソヨゴ、ネザサなど周辺山林構成種の侵入も顕著である。谷筋の湿潤な場所に発達しているほか、水田が放棄され年月が経過した場所にも発達している。市域北東部に小面積で発達している。

A-6. ムクノキーエノキ群集 (凡例番号: 11)

植生高が 20m に達する落葉広葉樹林。高木層にはムクノキ、エノキが優占し、多くは亜高木層を欠く。また、マダケやハチクなど竹の侵入も見られる場合もある。低木層にはムクノキ、エノキ、シュロ、ヤマグワなどが、草本層にはネザサ、ヤブラン、ケチヂミザサ、ヒカゲイノコズチ、マンリョウ、キツネノマゴなどが生育する。長良川沿いの河畔林として発達している。



【林内写真】地点:Ve20100909005、撮影:近藤慎一

A-7. ヤナギ高木群落 (凡例番号: 19)

植生高が 13m に達し、河辺林として発達する落葉広葉樹林。高木層にはマルバヤナギ、キヌヤナギ、タチヤナギなどが優占する。多くは亜高木層、低木層を欠く。草本層にはツルヨシ、クサヨシ、カナムグラなどが優占するほか、オオオナモミ、ヤナギタデなど湿潤な立地に生育する種も見られる。長良川沿いに発達している。



【遠景写真】地点:Ve20100909007、撮影:近藤慎一

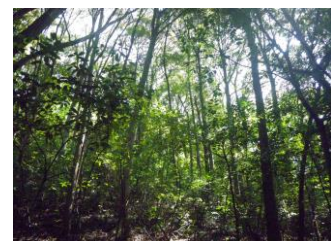
A-8. ヤナギ低木群落 (凡例番号: 14)

植生高が 5m 程度の落葉低木林。低木層にはイヌコリヤナギ、マルバヤナギ、カワヤナギなどが生育する。また草本層にはツルヨシ、イボクサ、ミゾソバ、ヤノネグサなどが生育する。長良川沿いの、増水時水を被るような場所に帯状に発達している。

B. ヤブツバキクラス域代償植生

B-1. シイ・カシ二次林 (凡例番号: 25)

植生高が 10m 前後から 25m に達する常緑広葉樹林。高木層にコジイ(ツブラジイ)が優占するが、萌芽状の個体が目立つ。林内にはコジイ(ツブラジイ)、アラカシ、サカキ、ヒサカキ、カナメモチなどの生育が顕著であるが、二次林の構成種であるソヨゴ、アオハダ、ヤマウルシ、コナラ、アベマキなどの生育も見られる。また、谷部や凹地ではイヌツゲ、アオキ、ホオノキ、ベニシダの生育が顕著であるほか、斜



【林内写真】地点:Ve20120913003、撮影:佐藤克則

面上部のやや乾燥傾向のある場所では、草本層にウラジロの優占する林分も見られる。カナメモチーコジイ群集に隣接する形で分布しているほか、周辺の山林にも小面積で発達している。

B-2. コナラ群落 (凡例番号：29)

植生高が 10m 前後から 23m に達する落葉広葉樹林。高木層および亜高木層にはコナラ、アベマキ、クリが優占するほか、アラカシ、コシアブラ、タカノツメなどの生育も見られる。低木層には、アラカシ、ヒサカキ、サカキ、ネジキ、ソヨゴ、アセビ、タカノツメ、モチツツジなどの生育割合が高い。草本層には、ベニシダ、アラカシ、イヌツゲ、シシガシラ、ヤブコウジ、ササクサ、コナラなどの生育が顕著である。なお、母岩の露出が見られるやや乾燥傾向のある場所では、草本層にヒトツバの生育が見られるほか、生育種数は 25 種以下と少ない。金華山の周辺をはじめ岐阜市域に見られる山塊に広く分布し、主に斜面下部から中部にかけて発達している。市域の約 7% を占めている。



【林内写真】地点：Ve20110095002、撮影：近藤慎一

B-3. アカマツ群落 (凡例番号：32)

植生高が 10m 前後から 18m 程度の常緑針葉樹林。高木層にアカマツが優占する。高木層にはコナラやクリなどの生育も見られるほか、林内にはヒサカキ、サカキ、ネジキ、ソヨゴ、アセビ、タカノツメ、モチツツジなどコナラ群落に共通の種の生育も顕著である。コナラ群落とは、高木層にアカマツが優占することやネズミサシ、ススキ、コシダの生育が顕著であることによって区分した。金華山をはじめ岐阜市域に見られる山塊に広く分布し、主に斜面中部から上部・尾根部にかけて発達している。市域の約 12% を占めている。



【林内写真】地点：Ve201100925002、撮影：佐藤克剛

B-4. クズ群落 (凡例番号：39)

植生高が 1.5m 程度の草本植生。つる植物であるクズが高い被度で優占することにより、他の植物の生育を妨げている。伐採跡地や人工法面などのほか河川の高水敷などにも発達し、非常に見苦しい景観となっている。



【近景写真】地点：Ve20120913013、撮影：佐藤克剛

B-5. 低木群落 (凡例番号：38)

植生高が 2~5m 程度の植生である。伐採後放置され数年が経過した場所で、アカメガシワ、ヌルデ、カラスザンショウ、クサギ、ノイバラなどの先駆植物が優占している。市街地周辺の耕作地周りや伐採跡地などに点在している。

B-6. 伐採跡地群落 (凡例番号：42)

山林などの伐採跡地に発達した高さ 1m 程度の草本群落あるいは広葉低木群落。市域北部の山地に小面積で分布している。

C. 河辺・池沼植生等

C-1. ヨシクラス (凡例番号: 45)

植生高 2m 程度以下の抽水植物などが優占する多年生草本植物群落。現地調査では、ヨシの優占するヨシ群落、カササゲの優占するカササゲ群落、ナガエミクリの優占するナガエミクリ群落をこれに整理した。放棄水田や小河川などに小面積で発達している。



【近景写真】地点:Ve20120913004, 撮影:佐藤克則

ヨシ群落



【近景写真】地点:Ve20120913004, 撮影:佐藤克則

カササゲ群落



【近景写真】地点:Ve20120912001, 撮影:佐藤克則

ナガエミクリ群落

C-2. ツルヨシ群集 (凡例番号: 46)

植生高 2m 程度以下の多年生草本植物群落。現地調査では、ツルヨシが優占するほか、カナムグラ、アシボソ、イシミカワ、サナエタデなどが生育している。河川の低水敷の石礫からなる立地に発達している。増水時には冠水するが、匍匐茎により流されることなく早期に回復する。長良川の一部のほか同水系の小河川に小面積で発達している。



【遠景写真】地点:Ve20120914003, 撮影:佐藤克則

C-3. オギ群集 (凡例番号: 47)

植生高 2m 程度以下の多年生草本植物群落。現地調査データは無いが、ツルヨシ群落同様に、河川沿いの立地的にはツルヨシ群集より一段高い場所で、石礫質ではなく砂質土壌上に発達している。長良川やその支流のやや河川幅の広い場所に、ツルヨシ群集よりも広い面積で発達している。

C-4. 河川敷砂礫地草本群落 (凡例番号: 109)

植生高 50cm 程度の一年生草本植物群落。河川低水敷のわずかな増水でも冠水する不安定な立地に発達する。このため、増水による地形の変化で消長を繰り返す。現地調査では、ヤナギタデの優占する植生を記録した。長良川沿いで小面積で発達している。



【遠景写真】地点:Ve20120913009, 撮影:佐藤克則

C-5. 河川敷砂礫地外来草本群落 (凡例番号: 110)

植生高 1~2m 前後の外来の草本植物が優占する草本群落。河川の高水敷を中心に発達する。現地調査では、オオブタクサの優占する群落、セイバンモロコシの優占する群落、メヒシバの優占する群落、シナダレスズメガヤの優占する群落を記録した。いずれも長良川沿いに小面積で発達している。



【近景写真】地点:Ve20120913007, 撮影:佐藤克則

オオブタクサ群落



【近景写真】地点:Ve20120913010, 撮影:佐藤克則

セイバンモロコシ群落



【近景写真】地点:Ve20120913008, 撮影:佐藤克則

シナダレスズメガヤ群落

C-6. ヒルムシロクラス

池沼や河川に発達する水生植物群落。現地調査では、市条例指定種であるヒメコウホネの生育するヒメコウホネ群落を記録した。このほかヒシ群落なども確認したが、いずれも極小面積なため植生図には反映していない。



【近景写真】地点:Ve20120913001、撮影:佐藤克剛

D. 植林地、耕作地植生

D-1. スギ・ヒノキ植林 (凡例番号: 52)

スギやヒノキの植栽された林分。植栽直後の林分から壮齢の林分まで本植生に含める。現地調査では、植生高 6~25m の林分を記録した。山地の広い範囲に分布している。



【林内写真】地点:Ve20091105006、撮影:近藤慎一

D-2. 竹林 (凡例番号: 62)

モウソウチク、マダケ、ハチク、メダケの優占する林分を竹林として整理した。河川沿いから山裾の広い範囲に小面積で分布している。



【林内写真】地点:Ve20100914004、撮影:近藤慎一

D-3. 牧草地 (凡例番号: g)

法面など定期的な管理が行われている草丈 1.5m 以下の草本群落。河川沿いの堤防法面を中心に帯状に分布している。

D-4. ゴルフ場・芝地 (凡例番号: h)

頻繁な管理が行われている草丈 10cm 程度の草本群落。ゴルフ場や河川高水敷などに分布している。

D-5. 路傍・空地雑草群落 (凡例番号: f)

ほとんど管理が行われていない空地などに発達する草丈 1~2m の多年生草本群落。セイタカアワダチソウ、ヨモギ、オオアレチノギクなどが優占する。河川の高水敷を中心に分布している。

D-6. 果樹園 (凡例番号: e)

果樹が栽培される樹園地。桑畑、苗木畑も含む。市北西部を中心に分布している。

D-7. 放棄畑雑草群落 (凡例番号: c)

放棄され 1~数年が経過した畑跡地。メヒシバ、ヨモギなどが生育する。市域では小面積がわずかに分布している。

D-8. 畑雑草群落 (凡例番号: a)

耕作が行われている畑。市域の平野部に分布し、約 3% を占める。

D-9. 放棄水田雑草群落（凡例番号：d）

植生高 0.5～3m の草本・低木群落。水田が放棄され数年が経過した植生。セリ、ツボクサ、ミゾソバなど、湿潤な立地に生育する種が多く生育している。一部にはミズゴケ類の生育も見られる。また、ネザサ、ノリウツギ、イヌコリヤナギなどの木本植物の生育も見られる。谷筋に小面積で分布している。

D-10. 水田雑草群落（凡例番号：b）

耕作が行われている水田および一時的に休耕している水田。市域の平野部に広く分布し、約 17% を占める。

E. その他

E-1. 残存植栽樹群をもった公園、墓地等（凡例番号：p）

残存木や植栽木が見られる公園や墓地。市域の広い範囲に点在している。

E-2. 緑の多い住宅地（凡例番号：i）

耕作地などを含む緑被率が 30% 以上混在する住宅地。市街地の周辺部を中心に分布し、市域の約 17% を占めている。

E-3. 市街地（凡例番号：k）

緑被率が 30% 未満の宅地、道路、人工構造物などが卓越する地域。市域中心部のほか、周辺の団地もこれに含まれる。市域の約 23% を占めている。

E-4. 工場地帯（凡例番号：L）

工場を主とする区域。市域南部の平野部を中心に分布している。

E-5. 造成地（凡例番号：m）

造成中の裸地、採石場など。市域の周縁部を中心に分布している。

E-6. 自然裸地（凡例番号：r）

自然条件により植生が発達していない区域。長良川を中心に分布している。

E-7. 開放水域（凡例番号：w）

河川、ため池など植生が発達がほとんど見られない区域。長良川を中心に市域の約 2% を占めている。

4-2-2 現存植生図

現地踏査および空中写真の判読により、現存植生図を作成した(付図-2 参照)。また、各植生単位などの市域に対する割合は表 4-8 のとおりである。

岐阜市内に発達する自然植生は、市域の約 0.8%を占め、その半分以上が金華山を中心に発達しているカナメモチーコジイ群集である。代償植生は市域の約 20%を占めており、その半分以上をアカマツ群落、次いでコナラ群落が占めている。

市域で最も広い面積を占めるのは市街地で市域の 23%を占め、緑の多い住宅地を含めると約 40%となる。また、植林地や耕作地など人為管理が行われている緑地は市域の約 34%を占め、これにより、市街地など人為の影響を大きく受けている地域は市域の 8 割近くになっている。

表 4-8 植生割合

植生名等	面積割合 (%)	植生名等	面積割合 (%)
ヤブツバキクラス域自然植生		植林地、耕作地植生	
ヒノキ群落	0.060	スギ・ヒノキ・サワラ植林	9.019
カナメモチーコジイ群集	0.490	竹林	0.891
アラカン群落	0.028	牧草地	1.130
カゴノキ群落	0.005	ゴルフ場・芝地	0.628
ハンノキ群落	0.001	路傍・空地雑草群落	0.798
ムクノキーエノキ群集	0.115	果樹園	1.234
ヤナギ高木群落	0.068	放棄畑雑草群落	0.056
ヤナギ低木群落	0.057	畑雑草群落	3.203
小計	0.824	放棄水田雑草群落	0.290
ヤブツバキクラス域代償植生		水田雑草群落	16.522
シイ・カシ二次林	0.439	小計	33.771
コナラ群落	6.945	その他	
アカマツ群落	11.800	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	0.479
クズ群落	0.030	緑の多い住宅地	17.033
低木群落	0.551	市街地	23.034
伐採跡地群落	0.039	工場地帯	1.049
小計	19.804	造成地	0.545
河辺・池沼植生等		自然裸地	0.681
ヨシクラス	0.017	開放水域	1.972
ツルヨシ群集	0.051	小計	44.793
オギ群集	0.683		
河川砂礫地草本群落	0.022		
河川砂礫地外来草本群落	0.035		
小計	0.808		